

【 大学院聴講生 】

※2024年1月29日現在(未更新のシラバスは掲載していません)

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間1	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連携	備考
心理学	7131001	心理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		佐治 伸郎	日本語	○	行動文化学1	
心理学	M341001	心理学(特殊講義)	2	後期	火	2		森口 佑介	日本語	○	行動文化学2	
心理学	M341002	心理学(特殊講義)	2	前期	水	3		滝田 宏	日本語	○	行動文化学3	
心理学	M341003	心理学(特殊講義)	2	後期	火	4		齋木 潤	日本語	○	行動文化学4	
心理学	M341004	心理学(特殊講義)	2	前期	月	2		熊田 孝恒・西田 真也・中島 亮一・水原 啓暎・三好 清文・佐藤 弥	日本語	○	行動文化学5	
心理学	M341006	心理学(特殊講義)	2	前期	水	2		黒島 妃香	日本語	○	行動文化学6	
言語学	7231001	言語学(特殊講義)	2	前期	月	2		大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学7	
言語学	7231002	言語学(特殊講義)	2	後期	木	5		浅尾 仁彦	日本語	○	行動文化学8	
言語学	7231003	言語学(特殊講義)	2	前期	水	3		CATT, Adam Alvah	日本語	○	行動文化学9	
言語学	7231006	言語学(特殊講義)	2	前期	水	4		谷口 一美	日本語	○	行動文化学10	
言語学	7231007	言語学(特殊講義)	2	後期	水	4		谷口 一美	日本語	○	行動文化学11	
言語学	7231009	言語学(特殊講義)	2	前期	水	3		山本 武史	日本語	○	行動文化学12	
言語学	7231010	言語学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		宮本 陽一	日本語	○	行動文化学13	
言語学	7231011	言語学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		鈴木 博之	日本語	○	行動文化学14	
言語学	7231013	言語学(特殊講義)	2	前期	月	2		Tao PAN	英語	○	行動文化学15	
言語学	7231014	言語学(特殊講義)	2	後期	月	2		Tao PAN	英語	○	行動文化学16	
言語学	7231016	言語学(特殊講義)	2	後期	月	2		大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学17	
言語学	7231017	言語学(特殊講義)	2	後期	水	3		CATT, Adam Alvah	日本語	○	行動文化学18	
言語学	7231018	言語学(特殊講義)	2	前期	水	5		黒木 亮	日本語	○	行動文化学19	
言語学	7231019	言語学(特殊講義)	2	後期	火	4		荻原 裕敏	日本語	○	行動文化学20	
言語学	7231020	言語学(特殊講義)	2	前期	金	1		野原 将輝	日本語	○	行動文化学21	
言語学	7231021	言語学(特殊講義)	2	後期	火	5		大崎 紀子	日本語	○	行動文化学22	
言語学	7231022	言語学(特殊講義)	2	前期	木	3		守田 貴弘	日本語	○	行動文化学23	
言語学	7231023	言語学(特殊講義)	2	後期	月	2		横森 大輔	日本語	○	行動文化学24	
言語学	7231024	言語学(特殊講義)	2	前期	月	4		千田 俊太郎	日本語	○	行動文化学25	
言語学	7231025	言語学(特殊講義)	2	後期	月	4		千田 俊太郎	日本語	○	行動文化学26	
言語学	7241001	言語学(演習)	2	前期	木	2		山岡 翔	日本語	○	行動文化学27	
言語学	7241002	言語学(演習)	2	前期	木	2		ババ/ハワダナ ルチラ	日本語	○	行動文化学28	
言語学	7241003	言語学(演習)	2	前期	金	3		定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学29	
言語学	7241004	言語学(演習)	2	後期	金	3		定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学30	
言語学	7241010	言語学(演習)	2	後期	金	3		堀口 大樹	日本語	○	行動文化学31	
言語学	7241011	言語学(演習)	2	前期	金	3		堀口 大樹	日本語	○	行動文化学32	
言語学	9624001	スワヒリ語(初級)(語学)	2	前期	火	3		井戸根 綾子	日本語	○	行動文化学33	
言語学	9625001	スワヒリ語(中級)(語学)	2	後期	火	3		井戸根 綾子	日本語	○	行動文化学34	
言語学	9652001	満洲語(初級)	2	前期	金	2		松岡 雄太	日本語	○	行動文化学35	
言語学	M351001	言語学(特殊講義)	2	前期	火	4		堀口 大樹	日本語	○	行動文化学36	
言語学	M351002	言語学(特殊講義)	2	後期	火	4		堀口 大樹	日本語	○	行動文化学37	
言語学	M352001	言語学(演習)	4	通年	金	4	金 5	定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学38	
社会学	7331001	社会学(特殊講義)	2	前期	月	2		山本 耕平	日本語	○	行動文化学39	
社会学	7331002	社会学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		筒井 淳也	日本語	○	行動文化学40	
社会学	7331003	社会学(特殊講義)	2	後期	火	2		Stephane Heim	日本語	○	行動文化学41	
社会学	7331004	社会学(特殊講義)	2	後期	水	5		筒井 淳也	日本語	○	行動文化学42	
社会学	7331005	社会学(特殊講義)	2	前期	水	3		岸 政彦	日本語	○	行動文化学43	
社会学	7331008	社会学(特殊講義)	2	前期	水	2		太郎丸 博	日本語	○	行動文化学44	
社会学	7331026	社会学(特殊講義)	2	前期	金	4		安里 和晃	英語	○	行動文化学45	
社会学	M361001	社会学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		安里 和晃・Stephane Heim	日本語	○	行動文化学46	
社会学	M361003	社会学(特殊講義)	2	前期	月	2		丸山 里美	日本語	○	行動文化学47	
社会学	M361004	社会学(特殊講義)	2	通年	水	4		太郎丸 博	日本語	○	行動文化学48	
社会学	M362001	社会学(演習)	4	通年	水	5		Stephane Heim	日本語	○	行動文化学49	
社会学	M362002	社会学(演習)	4	通年	月	5		丸山 里美	日本語	○	行動文化学50	
社会学	M362003	社会学(演習)	4	通年	金	4		太郎丸 博	日本語	○	行動文化学51	
社会学	M362005	社会学(演習)	4	通年	火	5		田中 紀行	日本語	○	行動文化学52	
社会学	M362006	社会学(演習)	4	通年	月	4		岸 政彦	日本語	○	行動文化学53	
地理学	7431001	地理学(特殊講義)	2	前期	月	3		埴淵 知哉	日本語	○	行動文化学54	
地理学	7431002	地理学(特殊講義)	2	後期	木	2		埴淵 知哉	日本語	○	行動文化学55	
地理学	7431003	地理学(特殊講義)	2	前期	金	2		米家 泰作	日本語	○	行動文化学56	
地理学	7431004	地理学(特殊講義)	2	後期	金	2		米家 泰作	日本語	○	行動文化学57	
地理学	7431008	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		松山 雄勝	日本語	○	行動文化学58	
地理学	7431009	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		杉田 和明	日本語	○	行動文化学59	
地理学	7431010	地理学(特殊講義)	2	前期	月	2		立見 淳哉	日本語	○	行動文化学60	
地理学	7431011	地理学(特殊講義)	2	前期	月	5		佐藤 廉也	日本語	○	行動文化学61	
地理学	7431012	地理学(特殊講義)	2	後期	月	4		三木 理史	日本語	○	行動文化学62	
地理学	7431013	地理学(特殊講義)	2	後期	火	5		稲垣 稜	日本語	○	行動文化学63	
地理学	7431014	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		山崎 孝史	日本語	○	行動文化学64	
地理学	7431017	地理学(特殊講義)	2	前期	水	2		杉江 あい	日本語	○	行動文化学65	
地理学	7431018	地理学(特殊講義)	2	後期	水	2		杉江 あい	日本語	○	行動文化学66	
心理学	7102001	系共通科目(心理学)(講義I)	4	通年	月	3		黒島 妃香・阿部 修士・熊田 孝恒・黒島 妃香・森口 佑介・Duncan Wilson・藤本 花音	日本語	○	行動文化学67	学部科目
心理学	7106001	系共通科目(心理学)(講義IIb)	2	前期	月	2		黒島 妃香	日本語	○	行動文化学68	学部科目
心理学	7109001	系共通科目(心理学)(講義IIe)	2	後期	火	2		滝田 宏	日本語	○	行動文化学69	学部科目
心理学	7113001	系共通科目(心理学)(講義IIc)(発達心理学)	2	前期	火	2		森口 佑介	日本語	○	行動文化学70	学部科目
心理学	7132001	心理学(特殊講義)(感情・人格心理学)	2	前期	火	2		畑中 千祐	日本語	○	行動文化学71	学部科目
心理学	7133001	心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)	2	後期	火	2		野口 寿一	日本語	○	行動文化学72	学部科目
心理学	7134001	心理学(特殊講義A)(神経・生理心理学)	2	前期	月	1		月浦 崇	日本語	○	行動文化学73	学部科目
心理学	7135001	心理学(特殊講義B)(神経・生理心理学)	2	後期	月	1		月浦 崇	日本語	○	行動文化学74	学部科目
心理学	7136001	心理学(特殊講義A)(知覚・認知心理学)	2	前期	金	2		齋木 潤	日本語	○	行動文化学75	学部科目
心理学	7137001	心理学(特殊講義B)(知覚・認知心理学)	2	後期	金	2		齋木 潤	日本語	○	行動文化学76	学部科目
言語学	7202001	系共通科目(言語学)(講義I)	2	前期	水	4		定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学77	学部科目
言語学	7204001	系共通科目(言語学)(講義I)	2	後期	水	4		定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学78	学部科目
言語学	7206001	系共通科目(言語学)(講義II)	2	前期	月	3		定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学79	学部科目
言語学	7208001	系共通科目(言語学)(講義II)	2	後期	月	3		定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学80	学部科目
言語学	7246001	言語学(基礎演習)	2	前期	木	2		定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学81	学部科目
言語学	7246002	言語学(基礎演習)	2	後期	木	2		定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学82	学部科目
言語学	9648001	朝鮮語(初級A)(語学)	2	前期	金	1		杉山 豊	日本語	○	行動文化学83	学部科目
言語学	9649001	朝鮮語(初級B)(語学)	2	後期	金	1		杉山 豊	日本語	○	行動文化学84	学部科目
社会学	7302001	系共通科目(社会学)(講義)	2	前期	水	2		田中 紀行	日本語	○	行動文化学85	学部科目
社会学	7304001	系共通科目(社会学)(講義)	2	後期	水	2		太郎丸 博	日本語	○	行動文化学86	学部科目
社会学	7361002	社会学(実習)	2	通年	水	4		太郎丸 博	日本語	○	行動文化学87	学部科目

行動文化学1

科目ナンバリング		G-LET28 67131 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	早稲田大学人間科学部 准教授 佐治 伸郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語習得論				
[授業の概要・目的]					
<p>言語は人間のコミュニケーションや思考の仕方を特徴づける。認知科学，認知心理学ではこの言語の習得がどのようにして可能になるのか，様々な理論が提案され，また反証されてきた。本講義では複数の理論的立場を取り上げ，個体発生の過程で言語がどのように習得されるのかについて概説を行い，現代何が問題とされているのかを明かにする。更に個別言語を習得することにより人間は世界の眺め方をどのように変えていくのか，言語と思考研究の立場から議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>子どもの言語習得を説明する理論について理解する。 子どもの言語習得の機序について説明できる。 言語習得と思考の発達の関係について理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の通り講義を進める。ただし講義の進みぐあいにより変更されることがある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 言語とは何か 第3回 言語習得の理論的背景1(行動学習理論) 第4回 言語習得の理論的背景2(普遍文法理論，制約理論) 第5回 言語習得の理論的背景3(状況論，社会語用論) 第6回 統計学習と言語習得(音韻習得，状況横断型学習) 第7回 言語とマルチモダリティ(言語の身体的基盤，類像性，指標性) 第8回 社会的認知と言語習得(意図共有，向社会性) 第9回 養育者とのやりとり(敏感調整と及び文化的継承) 第10回 個別言語の多様性(言語普遍性と個別性) 第11回 個別言語の意味体系の習得(意味の再編成問題) 第12回 言語と思考(色，空間など) 第13回 言語と思考(数，感情など) 第14回 言語習得を巡る社会的問題(多言語社会の問題) 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 心理学(特殊講義) (2)へ続く -----					

心理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

小レポート(50点)、最終レポート(50点)により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

佐治伸郎 『信号、記号、そして言語へ: コミュニケーションが紡ぐ意味の体系』 (共立出版)
ISBN:4320094638

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学2

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46				
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 森口 佑介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知発達特論				
【授業の概要・目的】					
本授業では、認知発達とその生物学的基盤を、発達心理学、認知神経科学、生理心理学などの知見を参照しながら理解することを目的とする。内容としては、実行機能、意識、メタ認知、注意、記憶、視覚イメージなどの認知機能の発達とその脳内基盤について、講義と受講者の発表を織り交ぜながら検討する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知発達とその生物学的基盤を理解する ・ 様々な認知発達の関連性を理解する 					
【授業計画と内容】					
1 イントロダクション 2 ~ 4 認知発達理論の復習 5 ~ 14 認知発達についての最新知見 15 まとめ					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
【評価方法】発表を割り当てるので、その発表(80点)および平常点(20点) 【評価基準】到達目標について、文学部・文学研究科の成績評価基準に従って評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
【予習】参考書程度の知識は授業前に身につけておく 【復習】授業の課題論文について、復習する (わからない部分があれば、教員に積極的に質問に来てください)					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学3

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	視覚科学特論				
[授業の概要・目的]					
<p>視覚に関する心理物理学・神経科学的研究について議論する。視覚科学の理論的基礎と方法論を習得するとともに、知見や方法をそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。前半は視覚科学の基礎に関する講義を行い、後半は参加者に最近の論文を読んで報告することを求める。</p>					
[到達目標]					
<p>視覚科学に関して、最新の研究について理解し、自らの研究を実践するための基礎となる高度な知識と批判的議論の能力を獲得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前半では、下記のテーマについて、それぞれ1-2週ずつ講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 視覚刺激と信号 3 受容野とたたみこみ 4 初期視覚処理のモデル 5 視覚実験刺激の基礎 6 MRIの基礎 7 fMRIと分析手法 <p>後半、8-14週は、参加者それぞれが最近の論文を読んで報告し、全員で議論を行う。参加者の数によって前半の講義の内容と週数を調整する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 フィードバック 					
[履修要件]					
<p>学部で実験心理学または周辺領域(神経科学など)の基礎を学んでいること 議論に参加できる日本語能力を持つこと</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点評価(発表と議論への参加)</p>					
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://foundationsofvision.stanford.edu/>(視覚科学の教科書(無料オンライン版))

[授業外学修(予習・復習)等]

前半は授業中に指示する。
後半は各自が論文を選んで内容を報告する。読むべき論文は前週までに報告し、他の参加者は予め概要を読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは固定しない。まずメール等で相談する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学4

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	視覚認識論				
【授業の概要・目的】					
<p>視覚による外界の認識の過程、特に視覚認識における注意や短期記憶の機能に焦点を当て、その研究方法論と最新の知見を解説する。行動実験を用いた研究、脳波測定研究などを取り上げる。心的現象を科学的に探求するための方法論を学ぶことにより視覚的注意に関する研究のみならず、広く視覚科学、認知科学的研究に応用できる知識を身につけることを目指す。</p>					
【到達目標】					
<p>正答率や反応時間を主たる指標とする行動実験のデータ解析に必要な基本的スキルを身に付ける。単に手法を学ぶのではなく、その理論的背景を理解する。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下の予定で講義を行う。各テーマ2週程度の授業を行う。講義の進捗により若干の内容の変更がありうる。</p> <p>1 - 2回．心理物理学的測定法 3 - 4回．信号検出理論の基礎 5 - 6回．信号検出理論の発展：強制選択と視覚探索 7 - 8回．信号検出理論の発展：有限状態モデルと視覚記憶 9 - 10回．信号検出理論の発展：弁別・同定課題と物体認識 11 - 12回．反応時間解析 13回．脳波測定とその解析 14回．授業内試験（問題演習） 15回．フィードバック</p>					
【履修要件】					
<p>心理学、認知科学の基礎的な知識があるとよいが必須ではない。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>平常点 50% 試験 50%</p> <p>試験は最終回の授業時に行う。持込可にする予定。 平常点は、PandA を通じて毎回授業後に授業に関するコメントを提出することによって評価する</p>					
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

教科書は用いない。

[参考書等]

(参考書)

なし。

[授業外学修(予習・復習)等]

自分自身の実験データなどで使ってみる。実験を計画する際に解析手法まで考える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学5

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	情報学研究科 教授 熊田 孝恒 情報学研究科 教授 西田 眞也 情報学研究科 准教授 中島 亮一 情報学研究科 准教授 水原 啓暁 情報学研究科 助教 三好 清文 非常勤講師 佐藤 弥	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知科学基礎論				
[授業の概要・目的]					
<p>視覚認知、注意、記憶、意識、実行機能、感情などを中心に人間の認知機能に関わる概念、及び、その脳内メカニズムを解説する。また、認知機能を理解するための心理学的手法、認知機能と脳との関係を明らかにするための機能的脳画像解析手法などについても詳細に解説する。さらには、社会への適用に関するトピックスも取り上げる。</p> <p>This lecture elaborates on the issue of brain mechanisms such as visual recognition, attention, memory, consciousness, executive function, and emotion. In addition, technical issues of experimental psychology and functional brain imaging are introduced. The applied aspects of these issues are also explained.</p>					
[到達目標]					
<p>人間の認知過程を理解するのに必要な認知科学の基礎知識を得ることができる。また、心理学実験や脳計測実験の実例を通して、基礎的な知見がどのように得られたかを理解できるようになる。さらには、情報学などの関連領域との関係、ならびに、基礎的な知見がどのように日常生活における認知的な問題と関係しているかについても理解を広げることができる。</p> <p>Basic knowledge and techniques for understanding of human cognitive system can be learned.</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 脳の基礎(水原) 3. 視覚情報処理の基礎(西田) 4. 基本的な視覚属性の知覚(西田) 5. 複雑な視覚属性の知覚(西田) 6. 知覚的意思決定(三好) 7. 注意(中島) 8. アクション(中島) 9. 記憶(水原) 10. 意識(三好) 11. 実行機能(熊田) 12. 感情(佐藤) 13. 社会的認知(佐藤) 14. 認知の個人差, 加齢変化, 障害(熊田) 15. フィードバック 					
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(2)

-
1. Introduction
 2. Basics of the brain
 3. Basic of visual information processing
 4. Visual perception for simple attributes
 5. Visual perception for complex attributes
 6. Perceptual decision
 7. Attention
 8. Action
 9. Memory
 10. Consciousness
 11. Executive function
 12. Emotion
 13. Social cognition
 14. Individual difference, aging and deficits of cognition
 15. Feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回、講義中に行うまたは、講義中に出題し、期限内に提出を求める小レポートにより評価（講義の最後実施するとは限らないので要注意）

これらは通常のテストと同等に扱う。

フィードバックを除く14回分を10点満点で採点し、合計140点満点を合計100点に換算する（小数点以下切り上げ）。したがって、6回以上、小テストを受けていない場合には、残りが満点であったとしても合格点には達しないので注意すること。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中の指示により、予習復習を行うこと。

心理学(特殊講義)(3)へ続く

心理学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学6

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46				
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 黒島 妃香		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	比較認知特論				
【授業の概要・目的】					
この講義の目的は、ヒトを含む多様な動物の認知能力に関する最先端の研究を学び、比較認知科学的観点から心の進化を考察することにある。					
【到達目標】					
比較認知科学では、対象とする動物種に応じた適切な実験手続きが求められる。最先端の研究を通して、多様な実験手法について学ぶとともに、実験から得られた結果をどのように位置づけ、比較し、考察するかについて習得する。また、実証的研究を通して心の進化について考察する。主に、意識、内省、感情に関連する内容を扱う。					
【授業計画と内容】					
第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 講師から2回ないし3回にわたり、ヒトやヒト以外の動物を対象とした認知に関連する研究を紹介し、基礎的知識を養ってもらう。続く回では、各受講者に講義で扱ったトピックに関連する最新の研究論文を紹介してもらい、受講者全員で研究法、考察に関する具体的な議論を行う。講義は基本3回ないし4回で1トピックの割合で進める。 第15回 心の進化に関する議題に対して各受講者に意見を発表してもらい、全員で議論する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
毎回の討論内容(30%)及び、発表担当回での発表と討論(40%)、最終回での討論(30%)により評価する。					
【教科書】					
特に用いない。必要な資料は準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
毎回トピックに関連した文献を調べ、議論に積極的に参加すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学7

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 大竹 昌巳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文字研究のあゆみ				
[授業の概要・目的]					
<p>20世紀初頭のF. de Saussureの言語研究に端を発する現代言語学では、文字は言語を表わすための記号体系であって、言語体系自体を構成する要素ではないとみなされ、その役割は軽視されてきた。その一方で、現代言語学の概念には、その母胎となったヨーロッパの文字体系であるアルファベットによるバイアスが色濃く反映しており、いかに文字が人間の認知に多大な影響を与えるかをかえって鮮明に示している。</p> <p>この授業では、世界の様々な文字体系に通用する枠組みの構築を目指す「一般文字学(文字論)」の取り組みを紹介することを通して、文字とは何か、文字と言語とはどのような関係にあるかを考えたい。授業では、文字の言語学的研究を構想した河野六郎(1912~1998)の文字論および西田龍雄(1928~2012)の文字学を取り上げて彼らの著作を読むとともに、文字研究で鍵となるいくつかの術語・概念を取り上げて関連文献を読み、それらの考え方の有用性や問題点について検討する。</p>					
[到達目標]					
文字と言語の関わりを考察するために必要となる観点について理解し、従来の考え方がどこまで有用でどのような問題点があるのかを具体的な事例を通して考察できるようになる。					
[授業計画と内容]					
<p>いくつかの文献(論文と著書の一節)を批判的に読むことを軸として授業を進める。その後、各受講者には自ら設定した課題について発表してもらうので、その話題について全員で討議する。取り上げる文献については授業内で説明するが、トピックとしては以下を予定している。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 河野文字論 3. 河野文字論(続) 4. 西田文字学 5. 西田文字学(続) 6. 書字方向 7. 文字体系の分類 8. 文字体系の分類(続) 9. 「表音」「表語」再考 10. 「表音」「表語」再考(続) 11-13. 発表と討議 14. 総括 15. フィードバック 					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点 (40%)、授業内での発表 (60%)

[教科書]

使用しない
資料を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字等々、日本語の表記は複雑で多様性に富み、河野六郎が言うように「文字とは何であるかということを考えるには、逆説的ながら、日本こそ最も恵まれている土壌だ」と言えるので、みなさんには「文字とは何であるか」を主体的に自由に考えてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学8

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 浅尾 仁彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	コーパスと言語研究				
[授業の概要・目的]					
言語研究において近年重要な役割を果たすようになってきているコーパスについて、その意義と限界を学ぶとともに、コーパスを実際に扱うための具体的な技術を身につけます。特定のコーパスやツールの使い方を学ぶのではなく、ソフトウェアが世代交代しても無駄になることのない基本的な考え方を身につけることを重視します。					
[到達目標]					
言語研究におけるコーパスの役割について理解するとともに、既製のコーパス検索ツール等に頼らずともコーパスを自在に扱えるようになるための基礎を身につけます。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション 第2回 コーパスの基本概念とテキストデータ 第3回 検索と正規表現 第4回 頻度と統計(1) 基本 第5回 頻度と統計(2) 進んだ話題 第6回 論文紹介(1) 第7回 論文紹介(2) 第8回 Pythonによるテキスト処理(1) 基本 第9回 Pythonによるテキスト処理(2) 検索 第10回 Pythonによるテキスト処理(3) 集計 第11回 Pythonによるテキスト処理(4) 進んだ話題 第12回 研究発表(1) 第13回 研究発表(2) 第14回 研究発表(3) 第15回 まとめ 授業計画は仮のものです。内容・日程は、受講者の人数・興味関心に応じて柔軟に変更することがあります。					
[履修要件]					
特になし					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（30％）、宿題（30％）、期末レポート（40％）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

石川慎一郎 『ベーシックコーパス言語学 第2版』（ひつじ書房, 2021）

浅尾仁彦・李在鎬 『言語研究のためのプログラミング入門』（開拓社, 2013）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容の復習として、シンプルな宿題を2、3回程度課します。また、授業では、先行研究の紹介や、自身の研究プロジェクトについての発表をお願いすることがありますので、その準備が必要です。期末レポートについては早めのテーマ設定など、計画性が求められます。

（その他（オフィスアワー等））

・パソコンを授業に持ち込めることが望ましい（OSなどは問わない）ですが、難しい場合は相談に応じます。
・授業時間外に連絡事項などある場合はメール等で対応します。詳細については授業中に共有します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学9

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語(古期サンスクリット語)はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定(学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7週間) 2. Hymn 2 (7週間) 3. フィードバックなど(1週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学10

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 谷口 一美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知構文論				
【授業の概要・目的】					
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 					
【授業計画と内容】					
<p>認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック</p>					
【履修要件】					
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況 (20%)、学期末のレポート (80%) から総合的に評価する。

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学11

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 谷口 一美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知意味論研究				
[授業の概要・目的]					
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学(特に認知意味論)の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり(1)：図と地の分化(導入) 第4回：言語学と心理学の関わり(1)：図と地の分化(考察) 第5回：言語学と心理学の関わり(2)：視線と主観性(導入) 第6回：言語学と心理学の関わり(2)：視線と主観性(考察) 第7回：カテゴリー化と言語(1)：プロトタイプ・カテゴリー(導入) 第8回：カテゴリー化と言語(1)：プロトタイプ・カテゴリー(考察) 第9回：カテゴリー化と言語(2)：抽象化とスキーマ(導入) 第10回：カテゴリー化と言語(2)：抽象化とスキーマ(考察) 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味(導入) 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味(考察) 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポート(80%)、授業への取り組みの状況(20%)から総合的に評価する。					
[教科書]					
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学12

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学 大学院人文学研究科 教授 山本 武史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語の音声・音韻				
[授業の概要・目的]					
英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。					
[到達目標]					
英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。					
[授業計画と内容]					
以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要の説明 2. English phonetics: Consonants 3. English phonetics: Vowels 4. The phonemic principle and English phonemes 5. English syllable structure (1): Phonotactics 6. English syllable structure (2): Syllabification 7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule 8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems 9. Rhythm, reversal, and reduction 10. English intonation 11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations 12. Variation in English accents 13. An outline of some accents of English 14. First language (L1) acquisition of English phonetics and phonology 15. Second language (L2) acquisition of English phonetics and phonology 					
[履修要件]					
特になし					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30点）および期末試験（実施が困難な状況においてはレポート）（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加を評価する。4回以上（4回を含む）欠席した者には単位を与えない。

[教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』（Wiley-Blackwell）ISBN: 9781119533740

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外の連絡はメール（yamamoto.takeshi.hmt@osaka-u.ac.jp）によること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学13

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院言語文化研究科 宮本 陽一 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	統語論研究				
[授業の概要・目的]					
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心(mind)を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文(移動現象)に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。					
[到達目標]					
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図, ブラケット等を用いて言語(特に英語と日本語)の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回：疑問文にかかる制約(基本概念)</p> <p>第5回：疑問文にかかる制約(帰結)</p> <p>第6回：疑問文にかかる制約(問題点)</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回：障壁理論(基本概念)</p> <p>第9回：障壁理論(練習)</p> <p>第10回：障壁理論(帰結)</p> <p>第11回：障壁理論(問題点)</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回：日英語比較(削除と移動)</p> <p>第15回：日英語比較(数量詞と量化詞)</p>					
[履修要件]					
言語学概論程度の知識があることが望ましい。					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行い、更にその帰結を提示した期末レポートを高く評価する。

[教科書]

使用しない
ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

（参考書）
宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学14

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 鈴木 博之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チベット・ビルマ諸語の地域言語学研究				
[授業の概要・目的]					
文化圏を単位とする言語の多様性・多層性・多重性について、チベット系諸言語(シナ・チベット語族チベット・ビルマ諸語)を例に紹介する。チベット系諸言語の共時的な特徴について理解するとともに、通時的発展や言語接触のありようについて詳細に取り扱う。また、言語地図の作成と分析についても実践的な視点から取り上げる。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・文化圏を単位とする諸言語を並行的に取り扱う基礎的な考え方を身につける。 ・対象言語への共時的アプローチと通時的アプローチを同時に扱う方法論を身につける。 ・言語地図の作成を通して言語現象の分布を可視化する方法論と技術を身につける。 					
[授業計画と内容]					
以下の予定で講義を進める。ただし進度によって多少変更する場合もある。					
【9月24日】					
第1回：チベット文化圏とチベット・ビルマ諸語、社会言語学的側面の概説					
第2回：チベット系諸言語の文字と発音					
第3回：音声・音韻の多様性と分析の枠組み					
【9月25日】					
第4回：言語分類にみる諸特徴：音韻、語彙、形態統語概説					
第5回：音変化の類型的特徴と自然性					
第6回：チベット系諸言語の語彙的特徴と派生					
第7回：形態統語論(1)：人称・数の範疇、定・不定標識、指示詞					
【9月26日】					
第8回：形態統語論(2)：格体系					
第9回：形態統語論(3)：動詞形態論と分類					
第10回：形態統語論(4)：チベット系諸言語に特化した証拠性の枠組み					
第11回：形態統語論(5)：テンス・アスペクト・証拠性・認識性					
【9月27日】					
第12回：チベット文化圏の地理言語学					
第13回：言語地図の作成と分析					
第14回：言語地図から言語特徴を読み解く(1)					
第15回：言語地図から言語特徴を読み解く(2)およびフィードバック					
[履修要件]					
チベット・ビルマ諸語に関する知識は特に必要ないが、言語学概論程度の知識があることが望ましい。					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

授業時にノートパソコンまたはタブレットを持参するのが望ましい(参考書がpdf形式のため、またオンラインソフトを用いた講義を含むため)。

[成績評価の方法・観点]

平常点(授業への参加状況)(30%)およびレポート(70%)とする。

[教科書]

授業中にハンドアウト・資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

Nicolas Tournadre & Hiroyuki Suzuki 『The Tibetic languages』(LACITO Publications, 2023) ISBN:978-2-490768-08-0

Hiroyuki Suzuki 『Geolinguistics in the eastern Tibetosphere: An introduction』(Geolinguistic Society of Japan, 2022) ISBN:978-4815031930

Graham Thurgood & Randy LaPolla (eds) 『The Sino-Tibetan languages. 2nd ed.』(Routledge, 2017) ISBN:978-0367570453

(関連URL)

<https://doi.org/10.5281/zenodo.10026628>(参考書1のダウンロード先(無償))

<https://doi.org/10.5281/zenodo.5989176>(参考書2のダウンロード先(無償))

<https://www.arcgis.com/home/webmap/viewer.html>(言語地図の作成に用いるArcGIS onlineのアクセス)

[授業外学修(予習・復習)等]

参考書情報欄に示した1.の文献を事前にダウンロード(無償・46MB)し、予習しておくのが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

- ・この集中講義は前期の採点報告日以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。
- ・履修者からの積極的な質問やコメントを歓迎する。
- ・オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学15

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Tocharian and Indo-European Linguistics				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.					
[到達目標]					
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History</p> <p>Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1</p> <p>Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2</p> <p>Week #04 Script and Manuscripts</p> <p>Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)</p> <p>Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)</p> <p>Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)</p> <p>Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya</p> <p>Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka</p> <p>Week #12 Tocharian A: grammar</p> <p>Week #13 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #14 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (2007)
Michael Weiss 『Kusinne Kantwo : elementary lessons in Tocharian B』 (2022)
Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch』 (1960)
<https://www.univie.ac.at/tocharian>
Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学16

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Tocharian and Indo-European Linguistics				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.					
[到達目標]					
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.					
[授業計画と内容]					
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History</p> <p>Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1</p> <p>Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2</p> <p>Week #04 Script and Manuscripts</p> <p>Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)</p> <p>Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)</p> <p>Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)</p> <p>Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya</p> <p>Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka</p> <p>Week #12 Tocharian A: grammar</p> <p>Week #13 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #14 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #15 Feedback</p>					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne. Textes et grammaire』 (Paris, 2008)

Michael Weiss 『Kusinne Kantwo : elementary lessons in Tocharian B』 (2022)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian>(Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学17

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 大竹 昌巳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジア音韻研究				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、東アジアの諸言語を題材として、いくつかの音声・音韻事象を取り上げて概説する。直接音声を観察可能な現代語だけでなく歴史上の言語も対象とし、共時的な音韻分析の方法や通時的な音変化の実態、背景にある音声学的動機などについて検討することを通して人間言語の音声・音韻を形づくるメカニズムや制約について理解を深める。主に取り上げる対象言語はシナ・チベット諸語、モンゴル諸語、トゥングース諸語、朝鮮語、日琉諸語などアジア東部に分布する言語ではあるが、扱う音韻事象自体は世界の諸言語でも観察されるもので、記述や分析も他の言語に適用できるものなので、この地域以外の言語の音声・音韻に興味がある者の受講も歓迎する。</p>					
[到達目標]					
<p>(1)多様な言語音の背景にあるしくみや制約を理解する。 (2)任意の音韻事象について、それがどのような事象なのかを正確に記述できるようになる。 (3)任意の音韻事象について、単に正確に記述できるだけでなく、その背景にある動機について音声学等の知見から考察することができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>講師が各トピックについて講義したのち、各受講者には任意の言語の音韻事象について、授業内の発表か期末レポートかを選択して報告してもらうので、発表についてはその内容を全員で討議する。 以下のトピックを扱う予定であるが、受講者数等に応じて回数や内容を調整することがある。詳細は第1回の授業で説明する。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 母音の音声学的基盤 3. 子音の音声学的基盤 4. 母音調和 5. 咽頭化と硬口蓋化 6. そり舌音とR音 7. 舌尖母音 8. 前鼻音と脱鼻音化 9. 喉頭特徴と声調 10. 音節声調と語声調 11-13. 課題発表 14. まとめ 15. フィードバック 					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

言語学（特に音声学・音韻論）の初歩的知識があることが望ましい。ない場合は事前に斎藤純男『日本語音声学入門』（2006年改訂版、三省堂）を一読することをお薦めする。

[成績評価の方法・観点]

平常点（40％）、授業内での発表もしくは期末レポート（60％）

[教科書]

使用しない
資料を配布する

[参考書等]

（参考書）

Peter Ladefoged & Ian Maddieson 『The sounds of the world ' s languages 』（Wiley-Blackwell, 1996）
ISBN:9780631198154

その他、授業中に適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で取り上げられた音韻現象の中で興味を持ったものについて、関連文献を読むなどして自身でさらに掘り下げて理解してもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学18

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語(古期サンスクリット語)はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定(学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるように、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7週間) 2. Hymn 2 (7週間) 3. フィードバックなど(1週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学19

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 松本 亮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シベリア諸言語研究				
[授業の概要・目的]					
ロシアには多数の少数民族、諸言語が話されています。そのうち、日本に地理的にも近く、言語類型論的にも近いとされるシベリアの諸言語について概観し、いくつかの言語について文法・テキスト読解を通して理解していきます。					
[到達目標]					
シベリアに分布する諸言語を外観した後、地域的な言語学・社会言語学的情報を知る。具体的に取り上げる言語を、語彙や辞書、グロスをもとに構造を理解できるようになるとともに、言語学的トピックについて考察できるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1～3回 シベリアの言語状況の概観 第4～9回 エヴェンキ語を取り上げる 第10～14回 ネネツ語を取り上げる 第15回 まとめ					
[履修要件]					
言語学入門が履修済であることが望ましい またロシア語の知識があるとなお良い(こちらはなくとも良いが、ロシア語文献が主でありキリル文字は知っておいて欲しい)					
[成績評価の方法・観点]					
授業中に課す数回の課題(60%)と最終まとめのレポート(40%)で評価する					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

日本語で読めるロシアやシベリアの諸数民族に関する文献は見ておいてください。
また授業で配布する文献を読む、課題を解く時間に当ててください。
受講生が関心を持つ、専攻とする言語との類型論的な比較ができるように各自言語学的トピックに関心を持って調べてください。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて受け付けるとともに、連絡が前もってあれば授業の前後の時間を空けることが可能です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学20

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 荻原 裕敏		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ソグド語文献から見るイラン語史研究				
[授業の概要・目的]					
<p>ソグド語について講義する。ソグド語は中期イラン語に位置づけられ、コータン語やホレズム語などとともに、東イラン語に分類される。残された資料は紀元1~2世紀以降のもので、碑文や貨幣銘の他に、紙及び木簡に書かれた文書が知られており、仏教・マニ教・キリスト教の宗教文献が大部分を占める。ソグド語文献は、主に中国甘粛省の敦煌と新疆ウイグル自治区のトゥルファンから発見されているが、ソグド人が古代内陸アジア交易で重要な役割を果たしていたことから、ソグド研究は中央アジア史研究においても重要な位置を占める。加えて、ソグド人の交易活動を背景とした漢人との接触の結果、ソグド語に見られる漢語からの借用語は、中古漢語の音韻の再建にも利用されてきた。今回の講義では、研究史並びに文法を概観した後、代表的なテキストの講読を通して、イラン語史研究の方法論やその可能性について解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>ソグド語の文法を学び、ローマ字転写されたテキストの読解を通して、工具書を利用して自らソグド語のテキストを読むことができるようになるとともに、古代イラン語から現代イラン語に至る言語変化についての概観的な知識を得ることを目指す。また、文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通じた言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <p>1 導入【1週】 研究史、イラン語におけるソグド語の位置づけ及び資料・工具書の紹介</p> <p>2 ソグド語の基礎【6週】 ソグド語を表記する文字:ソグド文字・マニ文字・シリア文字 ソグド語の音韻・文法</p> <p>3 出土文献資料による文献言語研究の方法論【7週】 出土文献資料の扱い方 ソグド語文献講読 出土文献解読による言語体系の解明とその可能性 出土文献資料に反映される文化と文献成立の背景</p> <p>4 フィードバック【1週】 期末レポート フィードバック</p>					
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート（70％）・平常点（小レポート）（30％）

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

（参考書）

Emmerick, Ronald E. and Maria Macuch (eds.) 『The Literature of Pre-Islamic Iran: Companion Volume I to A History of Persian Literature』 (I. B. Tauris, 2009)

Gershevitch, Ilya 『A Grammar of Manichean Sogdian』 (Blackwell, 1954)

Gernot Windfuhr (ed.) 『The Iranian Languages』 (Routledge, 2009)

Gharib, Badresaman 『Sogdian Dictionary: Sogdian-Persian-English (2nd ed.)』 (Farhangian Publications, 2004)

Ruediger Schmitt (ed.) 『Compendium Linguarum Iranicarum』 (Reichert, 1989)

Sims-Williams, Nicholas 『A Dictionary: Christian Sogdian, Syriac and English (2nd ed., rev.)』 (Reichert, 2021)

Sims-Williams, Nicholas and Desmond Durkin-Meisterernst 『Dictionary of Manichaean Sogdian and Bactrian (2nd ed., rev.)』 (Brepols, 2022)

吉田 豊 『ソグド語文法講義』 (臨川書店, 2022年)

その他、授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学21

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 野原 将揮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語音韻学：中古音について				
【授業の概要・目的】					
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項(特に中国語学の専門用語、字書、義書等)についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>					
【到達目標】					
<p>中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>					
【授業計画と内容】					
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。 第11回－第14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>議論への積極的な参加(20%) 小テスト(50%) レポート(30%)</p>					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学22

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 大崎 紀子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チュルク語概説				
[授業の概要・目的]					
<p>チュルク語は、西はアナトリア半島のトルコ語から、東はシベリアのサハ語に至るまで、ユーラシア大陸を横断する広大な地域で用いられている言語で、30余りの方言(言語)が認められている。この講義では、分布域のほぼ中央位置で話されているキルギス語のデータや研究成果を中心に、チュルク語に見られる言語現象を考察する。共通して見られる言語特徴と、個別言語間の違いを理解し、研究の視点や手法を身に着けることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>チュルク語に共通する言語特徴を理解し、説明することができる。 チュルク語の個別言語間の違いを理解し、説明することができる。 個別の言語現象に問題点を見出す観察力を養う。 見出した問題点を解決する視点を持てるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 1 分布と分類 2. Introduction 2 類型論的特徴 3. 音韻的特徴 1 4. 音韻的特徴 2 5. 文字と書記体系 6. 名詞と格 7. 名詞と所有接尾辞 8. 動詞の構造 1 9. 動詞の構造 2 10. 態(ヴォイス) 1 11. 態(ヴォイス) 2 12. 補助動詞 1 13. 補助動詞 2 14. 名詞修飾節 15. フィードバック 					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加 20点（授業内での発言や質問を含む）小課題：10点×2回、最終レポート：60点

【教科書】

授業中に資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）

アクマタリエワ ジャクシルク・大崎紀子 『大学のキルギス語』（東京外国語大学出版会、2024）
（印刷中）

Johanson, Lars. 『Turkic』（Cambridge University Press, 2021.）ISBN:978-0-521-86535-7

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に必ず質問をするか、または講師からの問いに答えられるように準備してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学23

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 守田 貴弘		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ダイクシスとコミュニケーション				
[授業の概要・目的]					
構造・機能相関論の観点から、人間言語の特質について考察する。特に、意図を共有する手段としての指示詞や各種ダイクシス表現(時間、空間、人称)について考える。また、具体的な言語現象を理論的に分析する手法についても学ぶ。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の言語現象に対する興味・関心を養う。 ・ 無意識で使い分けしている言語表現の背後にどのような論理がはたらいているのか考える力を身につける。 ・ 言語学的に主張を論証するための手続きが理解できる。 					
[授業計画と内容]					
以下のテーマについて、それぞれ2-3週で講義する。各項目に充てる時間数は履修者の理解度を見ながら調整する。					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 何のために言語は存在するのか (2) 習得可能性と表現力の相関 (3) 事例1: さまざまな言語における指示詞 (4) 事例2: さまざまな言語におけるダイクシス表現 (5) 事例3: さまざまな言語における人称表現 					
授業はフィードバックを含め全15回である。					
[履修要件]					
言語科学I, IIなどの入門科目を履修していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
授業期間中の3, 4回の小レポート50%および定期試験50%。 いずれにおいても講義内容を理解した上で、自らの考えを言語学的に論証する力で評価する。					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
ときどき資料提示のためにスライドを使用するが、基本的には板書のみで講義を行う。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義内容を復習し不明点は次回に質問すること。

(その他(オフィスアワー等))

一方通行の知識の伝授を目的とするものではなく、学生との対話によって授業はどのように展開するか未知の部分があります。積極的な発言を歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学24

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 准教授 横森 大輔		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	会話分析から迫る言語とコミュニケーション				
[授業の概要・目的]					
<p>どのような言語現象やコミュニケーション現象も、人と人との相互行為(インタラクション)の中で生み出されています。相互行為の実態とメカニズムを明らかにする学問分野として、会話分析(Conversation Analysis)というものがあります。この授業では、会話分析の基礎とそれを応用した言語分析について学び、人間の言語やコミュニケーションについての洞察力を深めることを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・現実の会話における言語使用の実態について理解を深める ・個々の語彙や構文が相互行為の中で果たす役割について分析できる ・「ターン(発話順番)」「リペア(修復)」「行為連鎖」「隣接対」など会話分析の基礎概念についての知識を理解する ・身の回りやメディアで起きているコミュニケーションに対して、学術的な視点から観察・理解を行うことができるようになる 					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・学期を通じて、文献講読とデータ分析実習を(概ね交互に)実施します。 ・文献講読では、担当者による発表と、担当者以外の受講者(全員)による事前コメントに基づくディスカッションを行います。会話分析分野の書籍や論文を読んでいます。 ・データ分析実習では、各受講生が見つけた具体的な会話事例と照らし合わせながら、これまでの研究における知見や論点の検証を行います。 					
<p>第1回 イントロ</p> <p>第2回 (講読) 会話分析最短入門!</p> <p>第3回 (実習) 会話データの文字起こし方法とその理念</p> <p>第4回 (講読) 発話すること = 他者に対する行為</p> <p>第5回 (実習) 行為連鎖の分析</p> <p>第6回 (講読) 文 vs. 発話</p> <p>第7回 (実習) ターン交替の分析</p> <p>第8回 (講読) 聞き手の役割</p> <p>第9回 (実習) 聞き手行動の分析</p> <p>第10回 (実習) 方法論: 会話データの観察から学術的知見へ</p> <p>第11回 (講読) 期末レポート構想ディスカッション</p> <p>第12回 (講読) イントネーション・パラ言語的特徴と相互行為</p> <p>第13回 (講読) 身体・環境と相互行為</p> <p>第14回 (実習) 期末レポート中間発表</p>					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

第15回 フィードバック

各回で取り上げるテーマは、受講生のニーズに応じて変更する可能性があります。

【履修要件】

事前知識は特に要求されませんが、「話しことば」「コミュニケーション」「会話」といったトピックに学術的に取り組む強い意欲をもっていることが求められます。

また、履修にあたっては、毎週の課題（下記）についてよくご確認ください。

【成績評価の方法・観点】

授業課題（予習課題、データ分析実習、発表担当）への取り組み：70点

期末レポート：30点

期末レポートでは、各自が定めたテーマ（相互行為の中の言語現象あるいはコミュニケーション現象）について、具体的な会話事例の詳細な観察に基づく論考（4000~8000字程度）を課す予定です。

【教科書】

オンラインで読める論文または電子書籍を取り上げていきます。URL等は授業で案内します。

【参考書等】

（参考書）

串田秀也・平本毅・林誠 『会話分析入門』（勁草書房, 2017年）（京大図書館のサイトから電子書籍版にアクセス可能）

平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実（編） 『会話分析の広がり』（ひつじ書房, 2018年）

（関連URL）

<https://sites.google.com/site/yokomoling/lab/recommended-readings>(CA/ILを学ぶための文献)

【授業外学修（予習・復習）等】

文献講読の予習課題やデータ分析実習課題は毎週全員に課せられます（毎週金曜締切の予定）。

単位取得を必要としない参加（いわゆる聴講）も歓迎しますが、毎週の課題に取り組むことが参加の条件となります。

（その他（オフィスアワー等））

質問等がある場合は、授業後または別途調整した日程にて受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学25

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドム語概説(1)				
[授業の概要・目的]					
ドム語は、パプアニューギニア高地、シンブー州のグミネ地区の一部とシネシネ地区の一部にまたがって存在するドム地域で主として話される言語である。本講義ではドム語の文法を概説する。前期は音韻論、形態論のほか、基本的な統語的特徴をいくつか取り上げる。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドム語といふ個別言語の研究を通じて音韻論、形態論、統語論にわたる言語事実の観察と分析の実際を知る。 ・個別言語の記述と言語類型論との関係を理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入: ドム語の概要 2. 音韻論(分節音) 3. 音韻論(超分節音) 4. 重複 5. 語類 6. 形態論、形態音韻論(動詞、名詞、指示詞) 7. 語順 8. 人稱・数 9. 他動性1(自他両用述語) 10. 他動性2(結合價を増やす方法) 11. 動詞連続(存在、設置、抛棄、知覚) 12. 動詞連続(移動、所有、その他) 13. 文タイプ、否定 14. 指示詞 15. まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポート					
[教科書]					
使用しない					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習と復習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

面談等が必要な場合は授業中、あるいは授業の前後に申し出ていただければ個別に対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドム語概説(2)				
[授業の概要・目的]					
ドム語は、パプアニューギニア高地、シンブー州のグミネ地区の一部とシネシネ地区の一部にまたがって存在するドム地域で主として話される言語である。本講義ではドム語の文法を概説する。後期は若干複雑な統語的特徴のほか、ドム語の類型的な位置付けや系統的な位置付けについて取り上げる。また最近の聞き出し調査の結果を検討する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドム語といふ個別言語の研究を通じて音韻論、形態論、統語論にわたる言語事実の観察と分析の実際を知る。 ・個別言語の記述と言語類型論との関係を理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入: ドム語とトク・ピシン (借用など) 2. 複文など 3. スイッチレファレンス 4. 引用 5. 数詞、形容詞 6. シンブー諸語とドム語 (音対応) 7. シンブー諸語とドム語 (所有接辞) 8. 受動的表現、アスペクト的表現 9. モダリティ的表現、ヴォイス的表現 10. 所有・存在表現、他動性に關する表現 11. 連用修飾複文、情報構造と名詞述語文 12. 情報構造の諸要素、連體修飾その他 13. ドム語とトク・ピシン (諸表現の対照) 14. 時間表現、場所表現 15. まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポート					
[教科書]					
使用しない					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習と復習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

面談等が必要な場合は授業中、あるいは授業の前後に申し出ていただければ個別に対応する。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学27

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山岡 翔		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	音声学				
[授業の概要・目的]					
話し言葉の学習 / 研究にはその媒体である音声についての理解が欠かせません。しかし、音声はふつう目に見えませんし、発した途端消えてしまうものなので、理解するに当たっては少々厄介です。そこで、この授業では調音・音響・聴覚の各側面の実習を通して、音声についての理解を深めていきます。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な音声を産出時の内省や聴覚印象に沿って観察することができる ・ 音声の基本的な特性を音響 / 知覚実験を通して確認することができる 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の内容を予定していますが、進度によっては変更の可能性があります。</p> <p>第1回：イントロダクション、音声器官のしくみ</p> <p>第2回：気流と発声</p> <p>第3回：破裂音・鼻音</p> <p>第4回：はじき音・ふるえ音</p> <p>第5回：摩擦音</p> <p>第6回：接近音、その他の子音</p> <p>第7回：子音の音響的観察</p> <p>第8回：第一次基本母音</p> <p>第9回：第二次基本母音、その他の母音</p> <p>第10回：母音の音響的観察</p> <p>第11回：聴覚印象による音声の書き起こし</p> <p>第12回：超分節的特徴</p> <p>第13回：超分節的特徴の音響的観察</p> <p>第14回：知覚実験</p> <p>第15回：この授業のまとめ</p>					
[履修要件]					
<p>言語学概論等で音声学の基礎を学んでいることが望ましいですが、必須ではありません。音声に関心のある学生を広く歓迎します。</p> <p>なお、授業の特定の回では各自PCの持参を求めます。もし持参できるPCがない場合は事前に担当者まで相談してください。</p> <p>また、受講生は授業内で指定された音声を発音することが求められます。何らかの事情によりこの要求に応えられない場合は、事前にメール等で担当者まで相談してください。</p>					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点：30点
課題：70点

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で学んだ音の発音・表記を確認するようにしてください。
授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要に応じて次回以降の授業後に担当者に確認してください。
授業で学んだことにもとづき、ぜひ自分の身の回りの音声をあらためて観察してみてください。

(その他(オフィスアワー等))

質問や相談がある場合は以下のアドレスにメールするか、授業の前後に直接伝えてください。
yamaoka.sho.25s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 パリハワダ ナルチラ		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究				
[授業の概要・目的]					
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何だろうか。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生(日研生)と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的な分析を行う。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。					
[到達目標]					
本授業の到達目標は、 (1) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。 (2) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めることである。					
[授業計画と内容]					
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。					
第1回 ガイダンス、初級日本語学習者の言語行動の疑似体験、テーマ選定・グループ形成					
第2回 日本語学習者の初歩的動機・グループワーク : 選定した学習項目の特徴・初級学習者を惹きつける要因の分析					
第3回 学習ニーズと多様な日本語(やさしい日本語、アカデミック日本語、ビジネス日本語、専門日本語)・グループワーク : 学習ニーズへの配慮					
第4回 コースデザイン・グループワーク : コースにおける位置づけ・到達目標設定					
第5回 教授法とシラバス・グループワーク : 教授法の検討					
第6回 漫画・アニメ・J-Popの日本語・グループワーク : メディアの活用法及び教材化の課題と利点					
第7回 教室活動・グループワーク : 教室活動と教科書分析					
第8回 中間発表会と前半の総括					
第9回 学習困難な日本語 学習を困難にしている理由とは?・グループワーク : テーマ選定・グループ形成及びアウトライン作り					
第10回 自然な日本語と教科書で用いられる日本語の問題点・グループワーク : 典型的な使用場面と状況					
第11回 教科書分析の方法・グループワーク : 教科書分析					
第12回 類推と転移・グループワーク : 他言語との比較					
第13回 誤用分析の方法・グループワーク : 誤用分析					
第14回 学習者ビリーフと動機付け : 期末発表の準備 グループ別期末発表					
第15回 フィードバック					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

【履修要件】

日本語・日本文化研修留学生、文学部、文学研究科の学生専用科目

【成績評価の方法・観点】

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：30%

中間発表・中間レポート：30%

期末発表・期末レポート：40%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

【教科書】

使用しない

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)
ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学29

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「自己らしさ」(egophoricity)をめぐる通言語的検討				
[授業の概要・目的]					
<p>「人は自己の心を知るようには他者の心を知ることはできない」という普遍的事実を，言語は常に忠実に反映するわけではない。そこには当該の言語ならではの「癖」がある。「自己らしさ」はさまざまな文法概念との関わりの中で，また社会的文脈や状況の中で，言語に反映されたり，されなかったりする。この演習では，通言語的な研究をまとめて読み議論することによって，「自己らしさ」への理解を深めつつ，言語学の基礎的能力の涵養をはかりたい。</p>					
[到達目標]					
世界の諸言語が「自己らしさ」に関して有する個別的特徴，さらに言語一般に共通する特徴について，多彩な現象と分析方法を知ることができる。					
[授業計画と内容]					
<p>下記の論文集を通読しつつ議論により理解を深める。授業では各回，学部の学生と大学院の学生がチームになり，割りあてられた部分について，ハンドアウトを使って内容を解説するとともに，問題となる事項について討議する。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。</p> <p>第1回 教材の紹介と入手法，授業の進め方 第2回・第3回 Chapter 1: An Introduction (Lila San Roque, Simeon Floyd and Elizabeth Norcliffe) 第4回・第5回 Chapter 2: “ Am I blue? ” : Privileged access constraints in Kathmandu Newar (David Hargreaves) 第6回・第7回 Chapter 3: Mirativity and egophoricity in Kurt#246p (Gwendolyn Hyslop) 第8回・第9回 Chapter 4: Interactions of speaker knowledge and volitionality in Sherpa (Barbara Kelly) 第10回・第11回 Chapter 5: Egophoricity and differential access to knowledge in Yongning Na (Mosuo) (Liberty Lidz) 第12回・第13回 Chapter 6: Egophoricity in Wutun (Erika Sandman) 第14回・第15回 Chapter 7: Egophoricity in Mangghuer: Insights from pragmatic uses of the subjective/objective distinction (Robert W. Fried), 全体総括 (但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

以下の合計による：（１）授業でのプレゼン（30%），（２）討論への積極的な参加（20%），（３）期末レポート（20%）。

[教科書]

Floyd, Simeon, Elizabeth Norcliffe and Lila San Roque 『Egophoricity』 (John Benjamins, 2018) ISBN: 978-90-272-0699-2 (入手法については第1回授業を参照のこと)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。担当部分以外も事前に目を通しておき、授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

(その他（オフィスアワー等）)

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学30

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「自己らしさ」(egophoricity)をめぐる通言語的検討				
[授業の概要・目的]					
<p>「人は自己の心を知るようには他者の心を知ることはできない」という普遍的事実を、言語は常に忠実に反映するわけではない。そこには当該の言語ならではの「癖」がある。「自己らしさ」はさまざまな文法概念との関わりの中で、また社会的文脈や状況の中で、言語に反映されたり、されなかったりする。この演習では、通言語的な研究をまとめて読み議論することによって、「自己らしさ」への理解を深めつつ、言語学の基礎的能力の涵養をはかりたい。</p>					
[到達目標]					
世界の諸言語が「自己らしさ」に関して有する個別的特徴、さらに言語一般に共通する特徴について、多彩な現象と分析方法を知ることができる。					
[授業計画と内容]					
<p>前期に続いて、下記の論文集を通読しつつ議論により理解を深める。授業では各回、学部の学生と大学院の学生がチームになり、割りあてられた部分について、ハンドアウトを使って内容を解説するとともに、問題となる事項について討議する。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。</p> <p>第1回(含イントロ)・第2回 Chapter 8: Morphological innovations in Mangghuer and Shirongolic: Reconstructing the formal emergence of the subjective vs. objective distinction (Keith W. Slater) 第3回・第4回 Chapter 9: Egophoricity and argument structure in Cha ' palaa (Simeon Floyd) 第5回・第6回 Chapter 10: Egophoricity and evidentiality in Guambiano (Nam Trik) (Elizabeth Norcliffe) 第7回・第8回 Chapter 11: The role of sentence type in Ika (Arwako) egophoric marking (Henrik Bergqvist) 第9回・第10回 Chapter 12: The evidential nature of conjunct-disjunct terms: Evidence from Oksapmin and Newar (Robyn Loughnane) 第11回・第12回 Chapter 13: Egophoric patterns in Duna verbal morphology (Lila San Roque) 第13回・第14回 Chapter 14: Learning how to know; Egophoricity and the grammar of Kaluli (Bosavi, Trans New Guinea), with special reference to child language (Lila San Roque and Bambi B. Shieffelin) 第15回 Chapter 15: Self-ascription in conjunct-disjunct systems (Stephen Wechsler), 全体総括(但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)</p>					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

以下の合計による：（１）授業でのプレゼン（30%），（２）討論への積極的な参加（20%），（３）期末レポート（20%）。

【教科書】

Floyd, Simeon, Elizabeth Norcliffe and Lila San Roque 『Egophoricity』（John Benjamins, 2018）ISBN: 978-90-272-0699-2（入手法については第1回授業を参照のこと）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。担当部分以外も事前に目を通しておき、授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学31

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スラヴ語学概論				
[授業の概要・目的]					
「スラヴ語学概論」と題し、英語で書かれたスラヴ語学の概説書を輪読し、スラヴ諸語間の相違性や各スラヴ語に関する理解を深める。					
[到達目標]					
言語について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。					
[授業計画と内容]					
授業で扱うテキストは、各スラヴ語を統一した方式で記述している。受講者の関心も考慮に入れた上でテーマを決め、事前に担当箇所(担当言語)を割り当て、各回の授業で発表・報告してもらう。テキストの解説のほかに、各自で補足して調べることが望ましい。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 音韻・文字 3. 音韻・文字 4. 語彙 5. 語彙 6. 語彙 7. 形態論 8. 形態論 9. 形態論 10. 統語論 11. 統語論 12. 言語と社会 13. 言語と社会 14. 言語と社会 15. 総括 					
[履修要件]					
スラヴ語の学習歴があることが望ましい。					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

発表・報告などの平常点：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Bernard Comrie and Greville G. Corbett 『The Slavonic Languages』 (1993)
Bernard Comrie and Greville G. Corbett 『The Slavonic Languages』 (1993)
授業で扱うテキストはコピーを配布する。
その他授業中に指示する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

スラヴ語の学習歴があることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学32

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究所 准教授 堀口 大樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラトビア語				
[授業の概要・目的]					
インド・ヨーロッパ語族バルト語派のラトビア語の実践的な学習を通じて、系統をともにする、または異にする言語間に見られることばの体系性や普遍性、相違点を明らかにする。					
[到達目標]					
ラトビア語の実践的な学習を通じて、ことばの普遍性や体系性、個別言語間の相違を明らかにする。 ことばをその周辺の諸現象(文化、社会、歴史、技術革新など)に有機的に関連付ける視点を得る。 既習の外国語や言語学の知識、言語学習の経験や学習に対する動機が、ゼロから半期で学ぶ言語の学習の進捗や理解度にどのように影響するかを自身で確かめる。					
[授業計画と内容]					
授業回数は全14回、その他期末試験、フィードバックの回を設ける。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文字と発音 2. be動詞、名詞と形容詞の性・数 3. 第2変化動詞、位格 4. 第3変化動詞、対格 5. 属格 6. 第1変化動詞、与格 7. 復習 8. 動詞未来形 9. 動詞過去形、アスペクト 10. 形容詞の定・不定 11. 複合時制 12. 命令法、願望法 13. 義務法、伝聞法 14. 復習 15. 試験 16. フィードバック 					
また、折に触れてラトビアの文化や社会についても紹介する。					
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----					

言語学(演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への参加態度などの平常点（50％）・試験（50％）。

[教科書]

堀口大樹 『ニューエクスプレスプラス ラトヴィア語』（白水社、2018年）

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

他は授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内外に限らず、言語の学習では音読を重視する。

（その他（オフィスアワー等））

教室定員の枠で受講生を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学33

科目ナンバリング		G-LET49 89624 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）(語学) Swahili	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（初級）				
【授業の概要・目的】					
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。教科書を用いて会話形式の文章の解説とともに文法を学び、作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また教科書の会話表現には、衣食住や習慣など文化的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関する知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する。 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる。 3：短い日常会話の流れを把握できる。 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する。</p>					
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----					

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社, 2018）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/wl/sw/index.html>（大阪大学言語文化研究科言語社会専攻/日本語専攻）高度外国語教育全国配信システムプロジェクトによるスワヒリ語独習コンテンツ。「文字と発音」では、実際の発音を映像付きで確認できる。）

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各課の予習・復習は必須とする。各課の本文については、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外でご質問などがある際はメールでご連絡ください。メールアドレスはKULASISのオフィスアワーで確認できます。授業に関するお知らせなどについてはPandAを利用しますので、PandAのチェックを怠らないようにして最新の情報にご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学34

科目ナンバリング		G-LET49 89625 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）(語学) Swahili	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（中級）				
[授業の概要・目的]					
<p>教科書はスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説とともに文法を学び、作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。教科書の基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する。 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる。 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる。 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨン / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する。</p>					
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----					

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社, 2018）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の名課の予習・復習は必須とする。各課の本文については、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外でご質問などがある際はメールでご連絡ください。メールアドレスはKULASISのオフィスアワーで確認できます。授業に関するお知らせなどについてはPandAを利用しますので、PandAのチェックを怠らないようにして最新の情報にご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学35

科目ナンバリング	G-LET49 89652 LJ48				
授業科目名 <英訳>	満州語（初級）(語学) Manchu	担当者所属・ 職名・氏名	関西大学外国語学部 教授 松岡 雄太		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	満洲語入門および満洲語学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>17世紀以降、中国に清朝を起こした満洲族の言語であり、かつ清朝の公用語でもあった満洲語の文語を入門レベルから学ぶ。満洲語はいわゆるアルタイ型言語の一つだが、同じアルタイ型言語に含まれる日本語などと比べながら学習することで、言語類型論に関する知識の修得も目指す。また、過去の先人たちが満洲語をいかに学習・研究してきたかを知ることで、話者数の多さや実用性ばかりに目が行きがちな外国語学習の現状にあって、外国語(特に少数民族言語)を学ぶ意義について考える機会にもしたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 満洲文字を読み、かつローマ字で転写できるようになる。 ・ 満洲語の基本的な文法知識を修得する。 ・ 満洲語がどのような言語か、類型論的な観点から理解する。 ・ 辞書さえあれば今後も引き続き独学で満洲語を学習・研究できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回~第2回 満洲族と満洲語、満洲語を学ぶ意義、学習工具類の紹介など 第3回 満洲語の音韻体系 第4回 満洲語の文構造 第5回~第7回 満洲文字の読み書きとローマ字転写の練習 第8回~第11回 満洲語文献の読解練習 第12回 朝鮮半島における満洲語研究 第13回~第14回 日本における満洲語研究史 第15回 授業の総括</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価(授業への参加状況、予習・復習、小テスト、授業内の発言など)					
----- 満洲語（初級）(語学)(2)へ続く -----					

満州語（初級）(語学)(2)

[教科書]

使用しない
適宜、プリントを配布する

[参考書等]

（参考書）

河内良弘・清瀬義三郎則府 『満洲語文語入門』（京都大学学術出版会, 2002）ISBN:9784876984459

津曲敏郎 『満洲語入門20講』（大学書林, 2002）ISBN:9784475018579

河内良弘 『満洲語辞典 増補改訂版』（松香堂書店, 2018）ISBN:9784879747457

河内良弘 『満洲語辞典 改訂増補版 日本語語彙索引』（松香堂書店, 2021）ISBN:9784879747617

[授業外学修（予習・復習）等]

満洲文字の学習や文献講読の回になると、毎週のように次回の授業までにやってくる授業外学修課題（宿題）が出されるだろう。その課題に耐えられるだけの忍耐力、授業外学習時間の確保、体調管理が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学36

科目ナンバリング		G-LET29 6M351 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語学概論				
[授業の概要・目的]					
「ロシア語学概論」と題し、文字・音声から形態論・統語論、さらには社会言語学など、ロシア語学の様々な下位分野における基本的な概念や諸問題を学ぶ。					
[到達目標]					
ロシア語学の様々な下位分野における基本的な概念や諸問題を理解し、考察できる力を見につける。					
[授業計画と内容]					
基本的には講義形式であるが、用例の報告など演習形式も併用する。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 音 2. 文字 3. 語彙論 4. 借用 5. 人名 6. 語形成論 7. 語形成論 8. 語形成論 9. 形態論 10. 統語論 11. 旧ソ連におけるロシア語話者 12. ソフトパワーとしてのロシア語 13. 言語アイデンティティ 14. その他の諸問題 15. 総括 					
授業回数は15回とする。					
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学(特殊講義)(2)

【履修要件】

全学科目「ロシア語IIB（文法）」など、ロシア語の初級・中級文法を一通り終えていることが望ましい。ロシア語の知識はないが、本授業の履修や聴講を希望する場合は相談のこと。

【成績評価の方法・観点】

成績評価については、平常点（60%）・学期末レポート（40%）に基づくものとする。平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みではかる。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

日頃から母語と外国語の運用能力を高める努力をしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

メールで事前に連絡のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点60%、期末レポート40%とする。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃からロシア語の運用能力を高める努力をしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

随時受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学38

科目ナンバリング		G-LET29 7M352 SJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年	
曜時限	金4,5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語	
題目	言語学の諸問題					
[授業の概要・目的]						
修士論文および課程博士論文の質の向上を目的とする。大学院生が自らの研究について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、思考力や分析力を培う機会にする。						
[到達目標]						
1. 発表、それに関する質疑を通じて、自分の研究を深める。 2. 専門を異にする研究者に対して、自分の研究をわかりやすくプレゼンテーションすることができるようになる。 3. 自分と専門が違う研究者の発表を理解し、簡潔で、適切な質問ができるようになる。 4. 発表の論理を理解し、論理の問題点などを指摘できる。						
[授業計画と内容]						
大学院生は、各自の研究の進捗状況と成果について、年30回の授業の中で少なくとも1回の発表を行う。修士論文提出予定者は前期と後期にそれぞれ1回ずつ発表を行う。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学の問題についての理解を深める。発表者は発表の数日前に、自らの研究成果が反映されているハンドアウトを用意しなければならない。 前期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ 後期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ						
[履修要件]						
特になし						
[成績評価の方法・観点]						
授業時での発表や他の院生の発表に対する批判的なコメントや質問など、平常点で評価する						
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----						

言語学(演習)(2)

[教科書]

ハンドアウトを使用する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者はハンドアウトを発表週の月曜日までに提出すること。ハンドアウトは読むだけで、論旨がわかるものとする。発表者以外は発表当日までに読み、質問を準備すること。質問、コメントは簡潔でわかりやすく、かつ、答えることが可能なものとする。

(その他(オフィスアワー等))

大学院博士後期課程修了者の参加も歓迎する

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学39

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山本 耕平	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査入門 (社会調査士科目A)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、私たちの社会で行われている「社会調査」について、その歴史や目的および意義、設計に関する基本的な考え方、具体的な調査手法の種類や特徴、自分たちが調査を行なうときには気をつけるべきこと、といった基本的事項を学ぶ。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。</p>					
[到達目標]					
<p>社会調査の目的や歴史を学び、調査の種類や仮説の立て方、対象者の選び方といった社会調査を設計する上でのもっともベーシックな知識とスキルを身につけるとともに、メディアを通じて触れるさまざまな社会調査の結果を適切に読み解くリサーチ・リテラシーを習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(授業の目標、進め方、評価方法など) 2. 社会調査の目的とリサーチ・リテラシー 3. 社会調査の種類 4. 社会調査における仮説設定 5. 社会調査のサイクル 問題発見と仮説検証 6. 既存統計の利用 7. サンプリングと総調査誤差 8. 調査票の設計 9. 社会調査の歴史 10. 質問紙調査の事例 11. インタビュー調査の事例 12. 参与観察の事例 13. 相互行為分析の事例 14. ドキュメント分析の事例 15. 社会調査の倫理 					
[履修要件]					
特になし					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

ワーク（50％）：各回の授業内容に関連した小テストないし小レポート。授業内容を踏まえた答案を作成できているかどうかで評価される。

期末レポート（50％）：授業で学んだ調査方法を用いた社会調査のプランを作成する。授業で学んだ諸点を踏まえてテーマ設定ができているか、調査のテーマに適合的な方法や対象者を根拠にもとづいて選択しているか、倫理的な配慮がなされているか、などの点から評価される。

[教科書]

特に指定しない。適宜、リーディング・アサインメントとして資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

松木洋人・中西泰子・本多真隆（編）『基礎からわかる社会学研究法 具体例で学ぶ研究の進めかた』（ミネルヴァ書房, 2023年）

松本渉『社会調査の方法論』（丸善出版, 2021年）

久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』（有斐閣, 2013年）

井頭昌彦（編）『質的研究アプローチの再検討 人文・社会科学からEBPsまで』（勁草書房, 2023年）

ジェリー・Z・ミュラー『測りすぎ なぜパフォーマンス評価は失敗するのか？』（みすず書房, 2019年）

[授業外学修（予習・復習）等]

リーディング・アサインメントが配布された際は、予習として通読してくることが求められる。

期末レポートの作成のため、関心のある調査テーマおよび調査手法、調査倫理について、自身でリサーチすることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

他の社会調査土科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学40

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学 教授 筒井 淳也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代社会と家族変動：「生涯学」の観点から				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、家族や生涯(人生、ライフコース)をめぐる変化を、より広い文脈や多様な視角から学ぶ。私たちが経験する家族や人生は、人口学的特性が異なる時代で経験されたものとは全く異なっている。たとえば平均寿命が60歳前後である時代では、現在のように長い高齢期は存在しなかった。しかし100歳以上人口が8万人を超えた今では、「人生100年」を見据えることは決しておかしいことではない。</p> <p>家族や生涯はまた、時代や社会ごとの経済的環境や制度的環境によっても異なって経験される。たとえば一部の東アジア社会では、欧米の女性が一時期経験した主婦化が経験されていない。講義では、時代観・地域観比較の観点から、こういった多様性について論じる。</p> <p>また、社会学の近隣分野(心理学や人類学など)が生涯に対してどうアプローチしているのかについても紹介し、家族と生涯に対する複合的な見方を説明する。</p>					
[到達目標]					
<p>家族と生涯(人生、ライフコース)について、社会的見方を軸にしつつ、複合的な観点から理解できるようになること。特に時代や地域ごとの多様性を踏まえつつ、人口学的特性や制度の概念を用いて、できるかぎり一貫した理論枠組みから家族と生涯を理解することを目指す。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回家族と近代化の基本理論1：家経済から雇用へ 第2回家族と近代化の基本理論2：結婚の変化 第3回家族と近代化の基本理論3：東アジアの「近代化」 第4回家族の概念と法制度1：結婚 第5回家族の概念と法制度2：親子関係 第6回生涯学1：老いは衰退か？老年学と行動科学 第7回生涯学2：幼年期の経験はその後の人生に影響するか？ 第8回生涯学3：人々の「生涯観」の実態 第9回人口学的変化とライフコース変動1：高齢期経験の変化 第10回人口学的変化とライフコース変動2：女性のライフコースの変化 第11回日本の家族と仕事1：福祉レジーム論 第12回日本の家族と仕事2：日本的雇用と日本社会システム 第13回日本の家族と仕事3：家族主義の多様性 第14回現代社会と家族のこれから << 期末レポート >> 第15回 フィードバック</p>					
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----					

社会学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点30点（授業への積極的参加）、期末レポート70点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

筒井淳也・前田泰樹 『社会学入門』（有斐閣）

筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）

筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで。連絡先は授業中に知らせる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学41

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 Stephane Heim		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	産業と労働社会学				
[授業の概要・目的]					
<p>産業と労働は、社会や経済の中で重要な役割を担っている。先進国において、18世紀から20世紀にかけて資本主義と製造業が大きな成長をとげ、現在は国際化とサービス産業が拡大され、さらに労働市場と雇用システムに様々な変化が起こっている。労働はモノやサービスを生産する経済的役割を果たしていると思われがちだが、社会的にはそれだけとは言えない。産業と労働は政治、市場、教育、社会階層などにも影響を与える。</p> <p>本授業では、「経済社会学」の観点から、労働と産業の経済・社会・政治的役割を考察する。日本の労働市場と雇用システム、欧州連合と労働問題、自動車産業の労働市場形成、サービス産業と就業形態の多様化、賃労働と福祉レジームの変化、などのケーススタディにおいて、産業と労働の社会的形成とその役割を学ぶことを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>本授業では、様々な事例を取り上げ、ディスカッションを交えながら産業・労働社会学の基本的な知識が得られる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 産業と労働社会学のアプローチ 第2回 雇用システムと労使関係 第3回 企業内労働市場の形成 第4回 日本型雇用システム 第5回 日本労働市場の形成 第6回 日本労働市場の変容 第7回 賃金格差と社会階層の変化 第8回 サービス産業の展開と就業形態の多様化 第9回 賃労働と福祉レジームの形成・課題 第10回 失業と非正規雇用の国際比較 第11回 欧州連合単一市場の形成と労働問題 第12回 フランスの雇用システム・賃金・労使関係 第13回 自動車産業と労働市場の国際比較 第14回 授業のまとめ 第15回 フィードバック</p> <p>受講生の関心により内容を変更することもある。</p>					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート（70％）、出席（30％）による

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学42

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学 教授 筒井 淳也	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	家族社会学：理論と実証				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、社会学の一分野である家族社会学について、理論と実証の両方の観点から体系的に説明する。</p> <p>家族社会学は、近代化論を軸とした基礎的な理論枠組み(たとえば直系家族制から夫婦家族制への移行)を持ちつつも、その実態の多様性から、常に理論研究と実証研究が絡み合いながら発展してきた分野である。本講義では、主に計量社会学の研究を参照しつつ、家族の変化や多様性について説明する際に必要な実証研究における概念や調査のあり方について説明する。</p>					
[到達目標]					
<p>家族を説明するための基礎的な理論枠組み、概念、実証における測定手法などを体系的に説明できるようになる。それをもとに、家族社会学の実証研究を読み解き、現代家族のあり方について深い見方を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 家族の実証研究の特性：質的・量的調査</p> <p>第2回 記述と分析：標準的な分析手法</p> <p>第3回 人口学と社会調査</p> <p>第4回 社会統計の基礎単位としての世帯</p> <p>第5回 家族の変化と社会構造</p> <p>第6回 結婚の理論と実証1：配偶者選択と同類婚</p> <p>第7回 結婚の理論と実証2：結婚タイミング、幸福度</p> <p>第8回 親子関係の理論と実証1：「系」の概念と測定</p> <p>第9回 第9回 親子関係の理論と実証2：成人親子関係</p> <p>第10回 家族とネットワーク</p> <p>第11回 多様な絆：事実婚、同棲、同性婚の実態把握</p> <p>第12回 無償労働：家事分担の実証</p> <p>第13回 家族・ケア労働・生活保障</p> <p>第14回 家族のこれからを考える</p> <p><< 期末レポート >></p> <p>第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----					

社会学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50点（授業への積極的参加）、期末レポート50点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）

筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで連絡してください。（連絡先は授業内でお知らせします。）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学44

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	基本的な統計資料とデータの分析(社会調査士科目C)				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、データの分布を要約する方法やグラフを使った視覚化の方法や質的データのまとめ方や読み方を概説する。大量のデータを扱う場合、それらをすべて読者に提示することは不可能なので、データをうまく要約する必要が生じることが多い。このような方法論は、データを扱う多くの学問分野で役に立つだろう。</p> <p>なお、この授業は社会調査士科目Cに該当する。</p>					
[到達目標]					
<p>この授業の到達目標はデータを要約するための方法の習得である。具体的には、自分自身で、そのような方法を用いて、データを要約できるようになるだけでなく、他人が要約したデータを読解できるようになることを目指す。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1.問題：大量のデータをどう処理するか？ 2.度数分布表と代表値とバラツキの尺度 3.不平等の指標 4.クロス表の分析 5.相関係数と非線形関係 6.因果分析と相関、疑似相関 7.データの視覚化：グラフの種類と作成、読解時の注意 8.多重クロス表の分析 9.公開されている集計表と表計算 10.ソフトを利用した二次分析の実習 11.オンライン集計システムを使った二次分析の実習 12.データの分類：クラスター分析 13.大量の質的データをどう扱うか？内容分析、テキストマイニングとコンピュータ支援質的データ分析ソフトウェア(CAQDAS) 14.「何人インタビューすればいいか？」問題：研究目的、研究対象、調査/分析プラン 15.フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを2本提出し、それらの平均点を成績とする。2つレポートを提出することが必須。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

盛山和夫 『社会調査法入門』 (有斐閣) ISBN:978-4641183056

轟亮・杉野勇・平沢和司編 『入門・社会調査法〔第4版〕2ステップで基礎から学ぶ』 (法律文化社) ISBN:978-4-589-04141-8

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ Googleアカウントが必要。
- ・ 授業時には、インターネットに接続できる自身のPC (またはPCに準じる機器) が必要。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学45

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 安里 和晃	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Qualitative Research and Community Fieldwork in Kyoto				
[授業の概要・目的]					
<p>This class will cover social research methods, mainly qualitative research. In view of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we are also planning to conduct fieldwork.</p> <p>Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through experience, observation, participation, interviews, action, questionnaires, and so forth, and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, and how people think and feel the way they do. Finally, researchers approach social reality through research and sometimes change reality through action. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue.</p> <p>During the first month, a lecture is given on his research experiences. The purpose is to stimulate discussion by making his experience a reference point. Then we will read some literature on qualitative research covering conventional interview research, which is subjective-objective binary used by many researchers. This will be useful for students in conducting qualitative research. In addition, we will also deal with research on colonial/post-coloniality, low-end globalization, and papers on non-binary research such as action research and commitment. Though spotty for this class, fieldwork will also be conducted at social welfare facilities, public schools, and the historical buraku community.</p>					
[到達目標]					
<p>This course provides an opportunity for mainly non-Japanese students to explore aspects of Japanese society that students may not be able to learn through prior knowledge. The course format involves studying topics such as outcast community, ethnic minorities, undocumented migrants, homelessness, and nursing homes, then students will gain a deeper understanding by actually visiting these communities and conducting interviews.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>The organization of the course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. research experience (1) fieldwork in a rural community 3. research experience (2) interviewing migrants/stakeholders 4. research experience (3) approach to the vulnerable and reciprocity in research 5. research experience (4) advocacy 6-7. experiencing community visits: houseless and economic development 8-9. experiencing community visits: being undocumented in Japan 10-11. experiencing community visits: ethnic Koreans under gentrification 					
社会学(特殊講義)(2)へ続く					

社会学(特殊講義)(2)

- 12-13. experiencing community visits: elderly care and ability to perceive scape
14. reading ethnography: globalizations
15. reading ethnography: community landscape

【履修要件】

This course is primarily designed for graduate students enrolled in the joint degree master program in Transcultural Studies at Kyoto and Heidelberg University who seek to understand Japanese society through qualitative research. Due to the nature of the course, accommodating many students may be challenging. Please kindly understand this in advance.

【成績評価の方法・観点】

Short papers based on community visits and class participation.

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, "The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology," *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, "The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research," *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, "Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment," *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation and review of relevant literature on community visits.

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学46

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	准教授 准教授	安里 和晃 Stephane Heim
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop				
[授業の概要・目的]					
<p>この科目は16年間にわたって実施されてきた「次世代グローバルワークショップ」をベースにしたものである。2024年度のワークショップのテーマは"Transculturality in Asia and Europe" (仮題)を予定しており、京都大学での開催を予定している。募集要項は5月に示され、応募書類のスクリーニングをもって報告者が決定される。ワークショップは9月末を予定しているが、それまでにフルペーパーの提出が必要であり、これらの論文はProceedingsに掲載される予定となっている。詳細情報については、5月初旬ごろ以下のアジア研究教育ユニットのウェブサイトで公開される予定。これまでのワークショップについても以下よりアクセスが可能である。 http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</p> <p>The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see the details in the call for papers as follows after April http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</p>					
[到達目標]					
<p>示されたテーマに従い英語論文を執筆し、研究者間の交流を主体的に進めつつ、英語で研究報告を行う。京都大学での開催であり、国際舞台の第一のステップとして参加しやすく、大きな成果が期待される。</p> <p>Proceedingsは以下よりアクセス可能。 https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/262982</p> <p>It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through the mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen their understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context. You can access the workshop proceedings below. https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/262982</p>					
[授業計画と内容]					
<p>示されたテーマにしたがって英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。報告にあたっておおまかなプロセスは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. タイトルの作成 2. 要旨の作成 					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学(特殊講義)(2)

3. 応募書類の作成と応募
4. 論文執筆 (6000語程度)
5. 校閲
6. 発表原稿作成
7. 発表演習
8. 修正
9. 報告
10. 大学教員からのコメントと返答
11. 全体のディスカッション
12. 研究者間交流
13. 論文のリライトと編集
14. 論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
15. プロシーディングス掲載と確認

ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

【履修要件】

応募が必要。発表要旨を提出し、選考を通った者のみが報告を認められる。単位は認められないがオブザーバーとしての参加も可能。

Applicants must submit their abstracts in advance, and only those who pass the selection process will be accepted to give a presentation.

【成績評価の方法・観点】

ワークショップへの参加・研究報告と提出論文により評価する。

Based on the workshop participation / presentation and final paper.

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

募集要項に従って準備を進める。

Please see calls for papers after April.

社会学(特殊講義)(3)へ続く

社会学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

ワークショップ参加希望者は

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

を通じてアポを取ること。(@)は@に。

Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

Or Kyoto University Asian Studies Unit

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 丸山 里美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	質的調査の方法（専門社会調査士科目J）				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、質的調査の特徴と、代表的な手法および質的データの分析方法、および質的調査をめぐる現代的な課題について学ぶ。質的調査の手法として、参与観察、インタビューなどがあり、質的データの分析方法として、ライフヒストリー分析、グラウンデッドセオリーなど異なる方法と、それらの背後にある対象選定とデータ解釈に対する異なる態度がある。また今日において質的調査を実施するには、現場で経験する政治的社会的不正義への姿勢、個人の人権やプライバシーの尊重、対象者への成果の還元、書くことの権力性への自省など、判断することを求められる倫理的態度がある。これら質的調査をめぐる異なる手法とその態度、倫理的課題について、どのような議論がなされているかを、具体的な事例をもとに、演習形式で検討する。それを通して、自ら質的調査を実施し、質的調査に基づいた論文を書けるようになることが目的である。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査の特徴を説明できるようになる ・ 質的調査を計画し、実施することができる ・ 質的調査において必要となる倫理的態度を理解する 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、自己紹介 2. 質的調査の特徴 3. 質的調査の歴史 4. 質的データの解釈と態度（1） 5. 質的データの解釈と態度（2） 6. 質的調査の倫理（1） 7. 質的調査の倫理（2） 8. 質的調査の代表的な成果（1）：インタビュー 9. 質的調査の代表的な成果（2）：参与観察 10. 質的調査の代表的な成果（3）：ライフヒストリー分析 11. 質的調査の代表的な成果（4）：相互行為分析 12. 質的調査の代表的な成果（5）：グラウンデッドセオリー 13. 質的調査データの検討（1） 14. 質的調査データの検討（2） 15. 質的調査データの検討（3） 					
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----					

社会学（特殊講義）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50% + 期末レポート50%

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業は、質的調査を行ったことがある / 行う予定があることを前提にする。議論には積極的に参加してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学48

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水4	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際（社会調査士科目G）				
【授業の概要・目的】					
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつとおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。					
【到達目標】					
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
前期					
1オリエンテーション					
2 調査の企画					
3 仮説構成					
4 調査項目の設定					
5 質問文・調査票の作成					
6 プリテストと調査票の修正					
7 対象者・地域の選定					
8 サンプルング					
9 調査の実施（調査票の配布・回収、面接）					
10 エディティング					
11 集計、分析					
12 データの視覚化					
13 仮説検証					
14 報告書の作成					
15 フィードバック					
後期					
1オリエンテーション					
2 データの入力・読み込み					
3 単純集計表、ヒストグラムの作成					
4 変数の操作の基礎					
5 変数の操作の応用					
6 クロス集計表、帯グラフの基礎					
7 クロス集計表、帯グラフの応用					
8 散布図、箱ヒゲ図の作成					
9 データセットの分割・結合					
10 独立性の検定					
11 平均値の差の検定					
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----					

社会学（特殊講義）(2)

- 12 多重クロス表分析
- 13 回帰分析の基礎
- 14 回帰分析の応用
- 15 フィードバック

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』（法律文化社）ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

【授業外学修（予習・復習）等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外にグループで実際の調査や調査票の作成、分析などを行う必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学49

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 Stephane Heim	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査に基づく研究				
[授業の概要・目的]					
この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。受講生の報告と討論を中心とする形式で実施される。					
[到達目標]					
質的調査にもとづいて書かれた研究や、質的調査に関する諸問題に関する理論的知見を批判的に検討し、自身の研究に関する視座を獲得すること。					
[授業計画と内容]					
(前期)					
第1回 イン트로ダクション 自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定					
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。					
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。					
第15回 まとめ					
(後期)					
第1回 イン트로ダクション 講読文献の決定、発表担当者の決定					
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。					
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。					
第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

報告と討議への参加によって評価する

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学50

科目ナンバリング	G-LET30 7M362 SJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 丸山 里美		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査にもとづく研究				
[授業の概要・目的]					
この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。質的調査にもとづいて書かれた国内外のトップジャーナルに掲載された論文を輪読し、上記の点について議論する。あわせて、受講者の修士論文・博士論文・投稿論文等について、中間報告を行い、議論する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査の方法と特徴について理解する ・ 質的調査にもとづく研究論文の記述の仕方を理解する 					
[授業計画と内容]					
【前期】 第1回 導入、自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定 第2～14回 質的調査にもとづく論文の輪読、もしくは修士論文・博士論文・投稿論文の中間報告を行う。 第15回 まとめ 【後期】 第1回 導入、自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定 第2～14回 質的調査にもとづく論文の輪読、もしくは修士論文・博士論文・投稿論文の中間報告を行う。 第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業での報告 60% + 議論への参加 40%					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各々のテーマに沿った研究報告を行うための準備をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学51

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際とデータ分析(専門社会調査士科目H・I)				
[授業の概要・目的]					
<p>社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する。また、数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解することを目指す。コンピュータを使ったデータの分析とその結果の解釈に重点を置く。</p>					
[到達目標]					
<p>データ分析の応用力を身につけ、データ分析のためのテクニックの幅を広げる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査方法論、調査倫理 2. 調査企画と設計(1) 3. 調査企画と設計(2) 4. 仮説構成 5. 尺度構成法 6. サンプルないし対象者・フィールドの選定(1) 7. サンプルないし対象者・フィールドの選定(2) 8. 調査票の作成(1) 9. 調査票の作成(2) 10. 実査 11. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(1) 12. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(2) 13. グラフ作成、仮説の検証(1) 14. グラフ作成、仮説の検証(2) 15. 報告書の作成 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回帰分析の復習 2. 非線形モデル(対数変換、二乗項の投入) 3. 交互作用効果の検討 4. モデルの選択(AIC, BIC, F検定) 5. モデルの診断(残差プロット、VIF) 6. 二項ロジスティック回帰分析(1) 7. 二項ロジスティック回帰分析(2) 8. 最尤推定法と尤度比検定(1) 9. 最尤推定法と尤度比検定(2) 					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学(演習)(2)

10. 多項ロジスティック回帰分析(1)
11. 多項ロジスティック回帰分析(2)
12. 順序ロジスティック回帰分析(1)
13. 順序ロジスティック回帰分析(2)
14. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(1)
15. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(2)

[履修要件]

すでに社会調査士の資格を取得しているか、同等の知識を持っていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習重視。宿題がでる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学52

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会学理論のフロンティア				
[授業の概要・目的]					
<p>社会学理論の現在の研究状況を概観できる英文の論文集を精読し、現代の主要な社会学理論の到達点と問題点・課題等について幅広く検討する。取り上げる理論は文化社会学、ミクロ社会学、フェミニズム、世界システム論、ポストコロニアル理論、合理的選択理論、社会システム論、界(field)理論、ポスト構造主義、ネットワーク論、アクター・ネットワーク理論、ネオ・プラグマティズムなど多岐にわたっている。</p> <p>またこれとあわせて受講者による修士論文・博士論文等の中間報告も適宜行う。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 社会学の理論系の英語文献の読解力を高める。 主要な現代社会学理論の特徴・問題点・課題について理解を深める。 自分が準拠している(または関心をもっている)社会学理論について、それが旧来の理論とどのような影響関係にあり、他の競合する理論と比較してどのような長所や短所をもっているのかを理解する。 自分の従事する経験的研究にどの理論がどのように利用できるかを学び、社会学理論への関心を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>前期</p> <p>【第1回】イントロダクション</p> <p>【第2回～第15回】テキストの講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>後期</p> <p>【第1回～第14回】テキストの講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>【第15回】まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
報告レジュメと授業中の発言によって評価する。					
[教科書]					
Claudio E. Benzecry et al.(eds.) 『Social Theory Now』 (University of Chicago Press, 2017) ISBN: 9780226475288					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は毎回テキストの該当箇所を予習してくることを求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学54

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 埴淵 知哉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	地域統計・社会調査の理論と実践				
[授業の概要・目的]					
<p>地域で起こる多様な現象の特徴を把握するためには、さまざまな種類の調査法を利用する必要がある。同様に、収集したデータの分析にも多くの方法が存在する。本講義ではとくに量的データに注目し、統計的・系統的な地域調査法に関する基礎的な概念・理論を紹介するとともに、調査の困難化やデジタル化といった現代的課題についても検討する。具体的なトピックとしては、国勢調査や標本調査、インターネット調査、デジタルデータなどが含まれる。また、地理的なデータの分析方法についても可能な限り本授業の中で取り上げ、簡単な実習を含めて、地域を俯瞰的にみる方法を広く議論することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・統計的・系統的なデータの収集・分析・表現に関する基礎的な知識とスキルを身につけることができる。 ・様々な地域調査法の長所と短所を理解し、課題に対して適切な方法を選択できる能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：人文地理学におけるデータ収集の方法 第3回：国勢調査の利点と欠点 第4回：国勢調査データによる地域特性の把握1（データ収集） 第5回：国勢調査データによる地域特性の把握2（データ加工） 第6回：国勢調査データによる地域特性の把握3（データ分析） 第7回：標本調査の利点と欠点 第8回：インターネット調査の可能性と限界 第9回：公開データと二次分析 第10回：標本調査データによる意識・行動の把握1（データ収集） 第11回：標本調査データによる意識・行動の把握2（データ加工） 第12回：標本調査データによる意識・行動の把握3（データ分析） 第13回：系統的社會観察の可能性と限界 第14回：デジタルデータの可能性と限界 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際にデータを扱う実習を組み込む予定です。</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（20点）、作業課題（30点）、レポート（50点）

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

埴淵知哉・村中亮夫編 『地域と統計： 調査困難時代のインターネット調査』（ナカニシヤ出版、2018年）ISBN:4779513405

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。授業時間内で終わらなかった作業課題については授業時間外に完了させること。

（その他（オフィスアワー等））

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学55

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 埴淵 知哉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	地図で描く都市・地域の諸相				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、さまざまな現象や問題を観察・表現する方法として地図に注目し、地図を通して都市・地域の諸相を理解することを試みる。取り上げる地図はデータマップ、メンタルマップ、デジタルマップなどである。データマップは都市・地域における諸現象の地理的な広がりを可視化し、各地域の特徴や問題を浮き彫りにする。メンタルマップは頭の中にある空間的なイメージを表すもので、私たちが世界や都市をどうとらえているのかを知る手がかりを与えてくれる。またGISやデジタルデータの広がりによって新しいデジタルマップが生み出される一方で、場所の経験を重視して街の特徴を描くユニークな地図帳も登場している。本講義では、こういった様々な種類の地図について学ぶとともに、それによって都市を多面的にとらえることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地図表現の特徴および長所・短所を説明できるようになる。 ・現代都市の諸問題に対して地図を通してアプローチする能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：データマップで描く都市 第3回：都市の歩行環境 第4回：都市の食環境 第5回：都市の社会経済的状況 第6回：都市の社会環境 第7回：地図による推論 第8回：メンタルマップで描く都市 第9回：都市のイメージ 第10回：デジタル地図と方向感覚 第11回：地図の歴史とGIS 第12回：位置情報ビッグデータ 第13回：地域らしさを描く地図帳 第14回：五感と想像力で描く地図 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際に地図を制作する実習を組み込む予定です。</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(20点)、作業課題(30点)、レポート(50点)

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

マイケル・ボンド 『失われゆく我々の内なる地図 空間認知の隠れた役割』(白揚社、2022年)

ISBN:4826902379

若林芳樹 『地図の進化論 地理空間情報と人間の未来』(創元社、2018年) ISBN:4422400371

デービッド・バニス, ハンター・ショービー 『ポートランド地図帖 地域の「らしさ」の描きかた』

(鹿島出版会、2018年) ISBN:4306046699

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学56

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 米家 泰作		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか - 山村の歴史地誌 -				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、紀伊山地を事例として、歴史地理学的な視点から、山村地域の成り立ちについて議論する。自然環境、古代史、宗教史、政治史、集落形成、環境の利用と改変、焼畑、林業、人口動態に留意しながら、山地斜面に多くの集落が分布するこの地域の特色を理解していく。紀伊山地の人口は集落の形成とともに歴史的に漸増してきたが、1960年頃をピークとして急減していく。その背景には、環境利用の高度化によって、経済地理の拡大に対応できず、生業の柔軟性を低下させたという事情がある。</p>					
【到達目標】					
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 山村という視点 第2回 限界集落の時代 第3回 山地環境と集落立地 第4回 古代の伝承とその痕跡 第5回 修験道と大峯山 第6回 寺領荘園と山村の形成 第7回 近世を迎えた山村地域 第8回 山村の多様な生業 第9回 『和州吉野郡群山記』にみる近世山村の世界 第10回 焼畑による巧みな森林利用 第11回 焼畑から林業へ 第12回 失われゆく多様な生業 第13回 育成林業の近代 第14回 山村地域の行方 第15回 フィードバック(方法は授業中に説明)</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(30%)と学期末のレポート(70%)により評価する。前者は授業数回ごとに求めるリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

米家泰作『紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか』(古今書院、2024) ISBN:978-4-7722-6123-4 (本書に沿って授業を進めるが、購入・持参を義務づけるものではない。)

[参考書等]

(参考書)

米家泰作『森と火の環境史』(思文閣出版) ISBN:9784784219735

米家泰作『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房) ISBN:9784751733508

白水智『中近世山村の生業と社会』(吉川弘文館) ISBN:9784642029490

池谷和信・白水智『山と森の環境史』(文一総合出版) ISBN:9784829911999

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の研究業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID(Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

<https://researchmap.jp/tkomeie>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学57

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 米家 泰作	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	山村の歴史地理と近世近代史料				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、山村の歴史地理にかかわる近世・近代の文書を講読し、どのような史料がどのような形で伝存しているのか、またそこから何が読みとれるのかを検討する。具体的には、授業担当者が研究上関わってきた奈良県吉野郡川上村と十津川村の史料から、山村地域の歴史地理的な特色を伝える史料を幾つか選び、順次、読み進める。受講生には、割り振られた史料について、簡単な内容紹介の担当をお願いする。</p> <p>なお史料は、基本的には『川上村史』、『十津川村史』の翻刻を用いる。くずし字の解読は扱わない。</p>					
[到達目標]					
<p>村落の歴史地理を研究する上で基本となる史料の性格を理解し、調査や研究に取り組むための基礎知識を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1. はじめに(ガイダンス)</p> <p>【近世の部】</p> <p>2. 検地帳</p> <p>3. 村明細帳</p> <p>4. 村絵図</p> <p>5. 国絵図・郷絵図</p> <p>6. 嘆願書</p> <p>7. 土地売買文書</p> <p>8. 由緒書・旧記</p> <p>【近代の部】</p> <p>9. 皇国地誌</p> <p>10. 地籍図・土地台帳</p> <p>11. 林業税(口役銀/開産金)</p> <p>12. 林業組合</p> <p>13. 秣山/草山</p> <p>14. ダム開発</p> <p>15. フィードバック(方法は授業中に指示する)</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

前期に同じ曜日時限で開講する「山村の地域誌 - 紀伊山地の歴史地理」と、内容的には連動しているため、それを受講しておくことで理解の助けとなるが、必須ではない。

[成績評価の方法・観点]

平常点(50%)と学期末のレポート(50%)により評価する。前者は割り振られた史料の内容紹介にもとづく。後者は授業で扱った史料について自由に考察する学期末レポートによる。

[教科書]

米家泰作『紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか』(古今書院、2024) ISBN::978-4-7722-6123-4 (本書と内容的に深くかかわるが、購入・持参を義務づけるものではない。)

[参考書等]

(参考書)

米家泰作『森と火の環境史』(思文閣出版、2019) ISBN:9784784219735

米家泰作『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房、2002) ISBN:9784751733508

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ> (講師の業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://researchmap.jp/tkomeie/> (リサーチマップ(科学技術振興機構))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069> (ORCID (Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku> (講師のフェイスブック)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業を講読形式で進めるので、担当を割り当てられた史料の紹介については、あらかじめ準備してください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。メールアドレスは授業時に開示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	防災研究所 教授 松四 雄騎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害(特に斜面災害)の被害軽減(減災)に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地(里山)で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景(素因)や、降水浸透あるいは地震動といった引き金(誘因)が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>9月3日(火) 森林斜面での野外実習(京都近郊丘陵地)</p> <p>9月4日(水) 実験室での土質試験(宇治キャンパス)</p> <p>9月5日(木) データ解析およびゼミ(宇治キャンパス)</p> <p>1日目: 野外巡検</p> <p>京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料</p>					
<p>地理学(特殊講義)(2)へ続く</p>					

地理学(特殊講義)(2)

の採集を行う。

2日目: 室内実験 + データ解析

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

【教科書】

関連する資料等を授業の中で配布・紹介する。

地理学(特殊講義)(3)へ続く

地理学(特殊講義)(3)

[参考書等]

(参考書)

塚本 良則 『森林・水・土の保全 湿潤変動帯の水文地形学』（朝倉書店，1998）ISBN:4254470274

[授業外学修（予習・復習）等]

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので，ホームワークとしてこなすこと．

(その他（オフィスアワー等）)

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため，動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上，虫よけや雨具，筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること．

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学59

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	流通経済大学経済学部 教授 杉山 和明		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会・文化地理学から考える「レジャーの空間」の光と影				
[授業の概要・目的]					
<p>現代の日常生活が営まれる舞台となる都市空間の成り立ちと都市の文化の特徴について知っておくことは、自らの生活環境の諸問題を把握し考察していく際に不可欠である。この講義では、近現代のさまざまな地域の事例を取り上げなら、都市の文化としての余暇活動について理論的かつ経験的に理解することを目的とする。社会・文化地理学ならびにその近接分野で蓄積されてきた知見をもとに、余暇活動に関わる具体的なテーマを通じて、さまざまな社会的立場によって見方が変化する、都市文化の正と負の側面について考えていく。</p>					
[到達目標]					
<p>社会・文化地理学の枠組みから都市の文化(「レジャーの空間」)を理解することによって、自らの生活環境の諸問題を主体的に考察するための基礎的な力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：受講ガイダンス 2. 都市の文化とは何か：諸分野のアプローチとキーワード 3. 産業革命・都市化・余暇活動：近代化とレジャーの変容 4. 都市の文化としての身近な余暇活動：『レジャー白書』の定義 5. 余暇活動の多様化と交通・通信の発達 6. 余暇活動と事故・病理・逸脱・非行・犯罪 7. 産業としてのギャンブル(1)：公営競技とパチンコ・パチスロ 8. 産業としてのギャンブル(2)：国際観光振興とIR、カジノ論争 9. 余暇活動とナイトタイムエコノミー(1)：風営法と飲食業 10. 余暇活動とナイトタイムエコノミー(2)：「サードプレイス」としての酒場 11. 余暇活動とナイトタイムエコノミー(3)：世界のアルコール関連問題と飲酒規制 12. 余暇活動とナイトタイムエコノミー(4)：青少年条例と「有害環境」 13. 都市とメガイベント：東京オリンピックにみる都市改編とレガシー 14. 未来都市の文化：労働と余暇の新たな関係？監視資本主義とスマートシティ 15. まとめ：重要事項の確認，期末レポートの注意など <p>講義計画に従って進める予定ですが、進行の具合、時事問題への言及などに応じて、順序や同一テーマの回数を変えることがあります。</p>					
[履修要件]					
<p>ノートPCを持参してください(資料の閲覧、小レポートの執筆に必須)。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>・授業中の小レポートおよびそれらを一つにまとめて全体の感想を書いた期末レポート(100%)を中心に、自己紹介文の提出状況も踏まえて、総合的に判断します。</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

- ・ 独自の見解が盛り込まれたレポートには高い点を与えます。

[教科書]

- ・ 教科書は指定しません。担当者が用意する資料を用いて講義を行います。
- ・ 資料の配布（ペーパーレス）やレポート課題の提出は、KULASIS（あるいはGoogle Classroom）で告知します。

[参考書等]

（参考書）

授業中に随時紹介します。映像資料なども活用します。

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 資料を各自で閲覧し、授業に備えてください。
- ・ 講義で扱った内容について小レポートを書くことで理解を深めていってください。
- ・ 優秀な小レポートについては、KULASIS（あるいはGoogle Classroom）に匿名で掲載し、講義中に適宜紹介します。

（その他（オフィスアワー等））

- ・ 集中講義の開講日程によっては、前期の成績報告が遅れることがあります。
- ・ 以下は担当者の紹介ページです。

杉山 和明 | 流通経済大学

<https://www.rku.ac.jp/faculty/professors/27749/>

杉山 和明 (Kazuaki Sugiyama) - マイポータル - researchmap

<https://researchmap.jp/read0141402/>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学60

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪市立大学経営学研究科・商学部 立見 淳哉 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	産業集積論を中心に地域発展をめぐる論点およびその変化を理解する				
[授業の概要・目的]					
<p>産業集積論を中心に地域発展を考察する学術的議論を扱う。産業集積とは特定の地理的範囲に多くの企業が集まっている状態のことをいい、都市あるいは大都市圏もひとつの巨大な集積地域もしくは集積地域の複合体である。この授業では、具体的な事例を交えながら、主として産業集積論の理論的エッセンスについて紹介していく。1980年代のポスト・フォードイズム論を背景とした産業集積への注目から、今日に続く、知識創造、集団学習、イノベーション、価値づけに関する議論までを整理する。</p>					
[到達目標]					
<p>講義を通じて、現代資本主義における経済活動と地理的環境の相互関連を理解する。都市・地域産業政策の理論的背景とともに、イノベーションに果たす外部環境の多面的な意味を各自が理解し、説明できるようになることを目指す。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨN 第2回 産業集積論の系譜 第3回 外部経済と外部不経済：住工混在問題 第4回 柔軟な専門化 第5回 取引費用論を用いたスコットのアプローチ 第6回 産業集積と制度 第7回 イノベティブ・ミリュー論1：ミリューと制度 第8回 イノベティブ・ミリュー論2：ミリューの機能 第9回 産業集積と制度：中間まとめ 第10回 「生産の世界論」1 第11回 「生産の世界論」2 第12回 コーディネーションから「価値づけ」の空間へ 第13回 価値付けと産業集積：「地域の価値」への着目 第14回 ソーシャル・イノベーションの産業「集積」：PTCE 第15回 フィードバック</p> <p>・受講生の関心に応じて講義内容や順番を変更することがあります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

成績評価は、各回の課題（ミニレポート等）100%とする。
課題については、到達目標の達成度について評価を行う。

[教科書]

立見淳哉 『産業集積と制度の地理学: 経済調整と価値づけの装置を考える』（ナカニシヤ出版，2019）ISBN:4779513871

[参考書等]

（参考書）

山本泰三編 『認知資本主義』（ナカニシヤ出版，2016）ISBN:4779509378

[授業外学修（予習・復習）等]

講義は各回の授業で扱う概念を積み重ねながら展開していきますので、内容を十分に復習するようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

質問があればメール等でも受け付けますので、お気軽にご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学61

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人文学研究科 佐藤 廉也 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文化地理学からみるアジア・アフリカの人と環境				
【授業の概要・目的】					
この講義では、主として文化地理学的なアプローチから、アジア・アフリカ諸地域の人間と環境との関係を理解することを目的とします。各地の農耕文化や知識・技術、価値観といった文化要素をとりあげつつ、それらにアプローチするための理論やフィールドワークの方法についても併せて紹介します。					
【到達目標】					
以下の3点を到達目標とします。 ・文化とは何かということ、および文化にどのようにアプローチすることができるか、その理論と方法を身につけること ・アジア・アフリカ各地域の文化を空間的広がりの中からとらえ、理解すること ・人間と環境との関係に対して、文化という概念を介在させてその動態を理解する具体的な方法を身につけること					
【授業計画と内容】					
01 イントロダクション：地理学からみる世界 02 焼畑とはどんな農法か？(1) 03 焼畑とはどんな農法か？(2) 04 そもそも文化とは何か？文化にどのようにアプローチできるのか？ 05 エチオピアという多様で不思議な世界 06 エチオピアのマイノリティ社会 07 人と環境をむすぶ文化の役割：自然に関する知識の獲得と継承 08 乾燥とたたかう農業・雑草とたたかう農業 09 イネのアジア地誌：稲作にとって灌漑と田植えはあたりまえ？ 10 「食事日誌」からみたラオス少数民族社会の食料獲得戦略 11 変わりゆく中国・黄土高原の暮らし 12 世界の<価値観>はどのように進化しているのか？ 13 暴力と戦いの人類誌：戦争はなくせる？無理？ 14 ところで「環境決定論」っていけない考え方なの？ 15 フィードバック(具体的内容は授業中に指示する)					
【履修要件】					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート試験の成績(60%)と、小コメント(40%)の充実度、で評価します。
毎回の授業終了後に小コメントを提出してもらいます。

[教科書]

使用しない
スライド(配布資料)に従って講義を進めます。

[参考書等]

(参考書)

佐藤廉也・宮澤仁(編)『人文地理学からみる世界』(放送大学教育振興会、2022)ISBN:9784595323249(講義内容に関連する章があります。必読ではありません。参考にしてください。)

佐藤廉也『大学の先生と学ぶ はじめての地理総合』(KADOKAWA、2023)ISBN:9784046060617(必読ではありませんが、教員免許取得を考えている受講生の方は参考にしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義スライドは授業支援システムから配布します(紙の資料は配りません)。予習に活用してください。

毎回の授業後に小コメントを提出してもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

質問は講義終了後、および随時メール等で受け付けます。メールアドレスは以下です。
rsato7788(アット)gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学62

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	奈良大学 文学部 教授 三木 理史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	鉄道廃止の地理学的研究				
[授業の概要・目的]					
<p>コロナ禍以後に注目の高まってきた日本の鉄道廃止の問題を、近年のコロナ禍や人口減少につなげて考えるにとどめず、歴史的に遡ってその変化から考えてみることを課題とする。日本にとどまらず、世界的にも鉄道は近代化の象徴と見られてきたことから、地理学はもとより関連分野においても路線網の「拡大」過程に関する研究や言及は数多いが、その「縮小」過程に関する研究は少ない。また交通に関わる研究では、交通の盛衰から人口、都市、農村など他の要因を説明する要素としての言及は多いが、交通そのものの盛衰に関わる研究は少数にとどまる。それら地理学および隣接分野での交通の取り扱い方にも注意を払いながら、日本の鉄道廃止を考えてみる。</p>					
[到達目標]					
<p>担当者の専門分野を中心とする人文地理学の基礎的な考え方や見方を学ぶとともに、その知見を活用して現代社会の抱える問題にどのような見方や考え方が可能なのかにもつながるように講義してみたい。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には、以下の構成に従って講義を進める。なお、講義の順序や内容の細部を変更する場合があります。</p> <p>第1回 地理学での交通の取り扱い：授業の序説として 第2回 鉄道廃止をめぐる研究動向(1) 第3回 鉄道廃止をめぐる研究動向(2) 第4回 日本の鉄道廃止の大勢(1) 第5回 日本の鉄道廃止の大勢(2) 第6回 明治期の鉄道廃止と沿線地域(1) 第7回 明治期の鉄道廃止と沿線地域(2) 第8回 利用減少が原因か(1) 第9回 利用減少が原因か(2) 第10回 第二次世界大戦期の特殊性 第11回 炭砒集落崩壊と鉄道廃止 第12回 国鉄改革と鉄道廃止(1) 第13回 国鉄改革と鉄道廃止(2) 第14回 地域交通の持続可能性と鉄道廃止 第15回 まとめと総括</p> <p>*フィードバック方法は授業中に説明します。</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

討論への積極的な参加（20点）、小レポート（30点）、試験または期末レポート（50点）により評価する。

【教科書】

使用しない

担当者の関係する論文などは授業内で紹介するが、主なものは<https://researchmap.jp/>の担当者ページからPDFデータを取得できるので、事前に一読しておいてもらえれば講義内容がより理解しやすくはなると思う。

【参考書等】

（参考書）

堀内重人 『鉄道・路線廃止と代替バス』（東京堂出版,2010年）ISBN:9784490206968（本書で21世紀初頭の鉄道廃止状況を概観し、そこを出発点に考えてみましょう。）

辻本勝久 『交通基本法時代の地域交通政策と持続可能な発展 - 過疎地域・地方小都市を中心に』（白桃書房,2011年）ISBN:9784561761914（本書で近年の持続可能性論との関わりで問題を見つめ直してみよう。）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示します。

（その他（オフィスアワー等））

授業後の声掛けには応じますので遠慮なく質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学63

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 稲垣 稜		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大都市圏構造の変化				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、20世紀に形成された大都市圏が、どのように変容して現在に至っているのか、どのような課題を抱えているのかを考える。まずは、大都市圏の形成過程について解説し、その構造がいかにして変容してきたのかを議論する。そのうえで、大都市圏を、都心、郊外（内部郊外）、外縁部（外部郊外）に区分し、それぞれの地域において生じている諸現象を、日常生活行動の観点から明らかにしていく。私たちの日常生活行動において重要な指標である通勤行動と買い物行動に着目し、その行動パターンが、世代、性別などによって大きく異なることを明らかにし、それが大都市圏構造をかかわっていることに目を向ける。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大都市圏という地域構造から、私たちの住む都市地域の変化を理解することができる。 2. 大都市圏で生じている諸課題に対し、主体的に検討することができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 大都市圏とは？ 第3回 大都市圏構造の変容 第4回 大都市圏郊外における中心都市通勤者の減少要因 第5回 大都市圏郊外の鉄道駅周辺における居住と通勤の特性 第6回 大都市圏外縁部における新旧住民の通勤行動 第7回 都心の人口回復と職住関係 第8回 大都市圏郊外における買い物行動の縦断分析 第9回 大都市圏郊外における買い物困難者の実態 第10回 大都市圏外縁部における新旧住民の買い物行動 第11回 都心居住者の買い物行動と都心商業地区 第12回 郊外第二世代の就業行動 第13回 郊外第二世代の居住行動 第14回 郊外第二世代と求人・求職 第15回 まとめとフィードバック</p> <p>授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に実施する小テストに基づく平常点（50点）、期末レポート（50点）で評価する。

[教科書]

稲垣稜 『日常生活行動からみる大阪大都市圏』（ナカニシヤ出版，2021年）ISBN:9784779515897

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前後に教科書を読んで予習・復習する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学64

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	大阪公立大学 文学研究科 教授 山崎 孝史	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「政治」を地理学する 政治地理学の方法論				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、地理学において「政治」がどのように考察・分析されるかを講述する。政治事象を対象とする地理学、つまり政治地理学が扱うのは、今日多様なスケールにおける多様な主体が関わる営みや実践としての「政治」であり、その範疇も権力・政策・支配・自治といった領野を越えている。したがって、そうした「政治」の多様性や重層性に応じた地理学方法論を考察するのが本授業の目的である。政治地理学方法論のテキストを用いて、3部15章を構成する様々なトピックについて各週で講述する。</p>					
[到達目標]					
<p>政治地理学において活用される理論と方法論を理解し、現代世界における多様な政治事象を地理学的観点から考察・分析できる資質を養う。また、政治的争点の地理的構成を理解することを通して、政治事象に対する多面的な視点を獲得できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1週 民主主義 第2週 支配と対立 第3週 地方自治 第4週 外交・安全保障 第5週 環境をめぐる政治 第6週 宗教 第7週 ジェンダー 第8週 観光 第9週 農産物 第10週 大阪と佐世保 第11週 ウトロ 第12週 沖縄島 第13週 対馬 第14章 ランペドゥーザ島 第15章 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

各週のショート・レポート(60%)およびフィードバック・レポート(40%)によって評価する。

[教科書]

山崎孝史編 『「政治」を地理学する 政治地理学の方法論』(ナカニシヤ出版、2022年) ISBN: 978-4-7795-1661-0

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://polgeog.jp/>(教員ウェブサイト「政治地理のページ」)

[授業外学修(予習・復習)等]

各週のテキスト内容について予習した結果を事前のショート・レポートとして提出すること。フィードバック・レポートは最終週以後に提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

授業終了後にオフィスアワーの時間を設けることが可能なので、事前に連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学65

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 杉江 あい		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的研究とフィールドワーク				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では質的研究を行うための基本的な視座・方法を学ぶ。それと同時に、フィールドワークの方法や民族誌・地誌の記述をめぐって展開されてきた議論を踏まえた上で、近年注目されている新たな方法や潮流について学び、その可能性や限界について考える。</p> <p>なお、この授業では事前に指定された論考をレジュメにまとめ、解説する担当者を各回で決める。担当者以外の受講生も事前に指定された論考を読んで授業に臨み、ディスカッションに参加することが求められる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的研究を行うための基本的な視座・方法について理解する。 ・ フィールドワークや民族誌・地誌の記述において生じる諸問題と、それらを乗り越えるための視座・方法の可能性について、自ら考え、意見を述べることができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回目 オリエンテーション</p> <p>第2回目 アートとしての質的研究</p> <p>第3回目 フィールドワークの人間関係</p> <p>第4回目 フィールドワーカーのポジショナリティ 1 ポストコロニアリズム</p> <p>第5回目 フィールドワーカーのポジショナリティ 2 地理的表象の危機</p> <p>第6回目 フィールドで/フィールドワークから考える</p> <p>第7回目 フィールドノーツ</p> <p>第8回目 インタビューの技法</p> <p>第9回目 インタビューの構築性</p> <p>第10回目 フィールドワーク・場所・身体 1 あわいの空間</p> <p>第11回目 フィールドワーク・場所・身体 2 自己変容</p> <p>第12回目 フィールドノーツをもとに記述する</p> <p>第13回目 ラディカル・オーラル・ヒストリー</p> <p>第14回目 オート・エスノグラフィー</p> <p>第15回目 まとめとフィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>・ この授業では事前に指定された論考をレジュメにまとめ、解説する担当者を各回で決める。担当者以外の受講生も事前に指定された論考を読んで授業に臨み、ディスカッションに参加することが求められる。担当決めや進め方の詳細は履修生の人数を考慮して授業内で説明する。</p>					
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----					

地理学(特殊講義) (2)

- ・積極的なディスカッションへの参加（20点）とレジюме作成・解説（40点）、期末レポート（40点）で評価する。
- ・レジюмеと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の渉猟をするなどの努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

授業で事前に指定した論考と受講生が作成したレジюме，また必要に応じて参考資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

佐藤郁哉 『フィールドワークの技法』（2022）

森川 洋 『人文地理学の発展 英語圏とドイツ語圏との比較研究』（2004、古今書院）ISBN:978-4772240536

[授業外学修（予習・復習）等]

レジюме作成担当者は決められた期限までにPandAにレジюмеをアップロードする。事前に指定された論考を読んで授業に臨み，ディスカッションに参加できるように準備しておく。

（その他（オフィスアワー等））

面談は必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 杉江 あい		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「被災地」における場所の喪失と再構築－岩手県陸前高田市を中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、東日本大震災で甚大な津波被害を受けた岩手県陸前高田市を中心として、「被災地」における場所の喪失と再構築を人文地理学の観点からよみとく。</p> <p>この授業は次の2つの進め方に分かれる。</p> <p>1. 授業担当者が映像資料なども用いて陸前高田の震災と復興の経験について講義し、人文地理学および隣接分野の概念やアプローチを援用しながら「被災地」をめぐる諸問題を提示する。</p> <p>2. 受講生が講義で提示された諸問題に関連する著作を1人1つずつ選んで発表し、著作の内容を解説・批評する(授業計画の文献発表 ~)。</p> <p>この2つを交互に行い、担当者を含む授業の参加者が「被災地」をめぐる諸問題についてディスカッションすることで、理解を深める。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・「被災地」で生起している現象を、地理学の重要概念を用いて理解・説明できるようになる。 ・「被災地」に関する著作を自分で読み、解説・批評できるようになる。 ・「被災地」をめぐる諸問題について、各自が自分の意見を述べるができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回目 オリエンテーション</p> <p>第2回目 陸前高田の地理と歴史</p> <p>第3回目 震災による場所の喪失 1 高田町, 気仙町</p> <p>第4回目 震災による場所の喪失 2 広田町, そのほか</p> <p>第5回目 文献発表 地理・歴史・震災</p> <p>第6回目 大文字・小文字の復興</p> <p>第7回目 文献発表 「復興」とは何か</p> <p>第8回目 復興による場所の喪失と再構築</p> <p>第9回目 文献発表 復興災害</p> <p>第10回目 震災と復興を通じたつながり</p> <p>第11回目 文献発表 NPO・移住者</p> <p>第12回目 哀悼の場所</p> <p>第13回目 語り / 語ることと可傷性</p> <p>第14回目 文献発表 災禍と語り</p> <p>第15回目 まとめとフィードバック</p>					
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・ディスカッションへの貢献（20点）とレジюме作成・解説（40点）、期末レポート（40点）で評価する。
- ・授業担当者は文献発表 ~ で取り上げる著作のリストを提示するが、関連する内容で、ほかに取り上げたい著作があればそれを選択してもかまわない。
- ・担当者以外の受講生も事前に発表される著作を読んで授業に臨み、ディスカッションに参加することが求められる。担当決めや進め方の詳細は履修生の人数を考慮して授業内で説明する。
- ・レジюмеと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の渉猟をするなどの努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

【教科書】

授業でレジюмеを配布する。

【参考書等】

（参考書）

宮城 孝ほか編 『仮設住宅その10年 陸前高田における被災者の暮らし』（2020）ISBN:978-4275021274

中井 検裕ほか編 『復興・陸前高田 ゼロからのまちづくり』（2022）ISBN:978-4306073616

大門 正克ほか著 『「生存」の歴史をつなぐ 震災10年、「記憶のまち」と「新たなまち」の交差から』（2023）ISBN:978-4881161272

【授業外学修（予習・復習）等】

文献 ~ のレジюме作成担当者は決められた期限までにPandAにレジюмеをアップロードする。他の受講生も事前に発表される著作を読んで授業に臨み、ディスカッションに参加できるように準備しておく。

（その他（オフィスアワー等））

面談は必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学67

科目ナンバリング		U-LET28 27102 LJ46			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(心理学)(講義 I) Psychology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏 人と社会の未来研究院 准教授 阿部 修士 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 文学研究科 教授 黒島 妃香 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 講師 Duncan Wilson 文学研究科 助教 藤本 花音	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	実験心理学概論				
【授業の概要・目的】					
この講義の目的は、実験心理学の基礎的知識から最新の研究成果を身につけることにある。多様な心理学領域から、行動の科学としての目的、問題、手法、考え方などを学ぶとともに、最新の研究成果を知ることによって実験心理学を概観する。					
【到達目標】					
実験心理学の多様な領域に関する基本事項を理解するとともに、その最新の研究成果に触れることによって現在の研究の動向を理解することができるようになる。					
【授業計画と内容】					
ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について、最新のトピックやデモを織り込みながら、講座の教員全員および関連部局の教員によるリレー形式で講じる。 講義内容は以下の通りである。必修科目ではないが、心理学専修を希望する者はぜひ履修するよう強く推奨したい。					
第1回 実験心理学とは何か(全員)					
第2回 脳と神経(蘆田)					
第3回 感覚知覚の諸相(蘆田)					
第4回 感覚知覚の歴史と基本法則 クロスモーダル知覚(蘆田)					
第5回 心理物理学的測定法(蘆田)					
第6回 知能(蘆田)					
第7回 社会的認知(阿部)					
第8回 意思決定(阿部)					
第9回 注意(熊田)					
第10回 実行機能(熊田)					
第11回 バーチャルリアリティ(藤本)					
第12回 身体(藤本)					
第13回 学習理論(黒島)					
第14回 記憶(黒島)					
第15回 前期総括(黒島)					
第16回 後期導入(黒島)					
第17回 思考・推理(黒島)					
第18回 社会的知性(黒島)					
系共通科目(心理学)(講義 I)(2)へ続く					

系共通科目(心理学)(講義Ⅰ)(2)

- 第19回 メタ認知（黒島）
第20回 動物心理学と動物の福祉（Wilson）
第21回 認知バイアスと感情（Wilson）
第22回 脳と行動の一側優位性（Wilson）
第23回 顔認知（Wilson）
第24回 発達理論（森口）
第25回 知覚発達（森口）
第26回 認知発達（森口）
第27回 社会性発達（森口）
第28回 感情発達（森口）
第29回 総括（全員）
第30回 試験

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）による(100%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
京都大学心理学連合 『心理学概論』（ナカニシヤ出版）ISBN:9784779503993（心理学の全貌を基礎から知るための概論書。）

【授業外学修（予習・復習）等】

紹介された文献や参考図書を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

心理学専修を希望する可能性がある者は、2回生で履修することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27106 LJ46			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(心理学)(講義IIb) Psychology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 黒島 妃香	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	知性と感情の系統発生論				
[授業の概要・目的]					
多様な動物種の知性と感情の機能を学び、それらがいかに進化したのか、ヒトの心の働きは其中でいかに位置づけられるのかを考察する。					
[到達目標]					
動物たちのゆたかな心の働きを知り、心の多様性を学び、ヒトの心を相対化することを通じて、ヒト中心主義を脱し、新たなヒト観を構築する。ヒトが決して特別な存在ではないこと、多様な心の存在が地球共生系の未来へのカギであることを理解し、全ての生にとって真に幸福な未来を志向した、新たな行動指針を考える力を身につける。					
[授業計画と内容]					
ヒトの心の機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の心が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の心の働きを分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較認知科学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、感情、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。以下の予定で講じるが、適宜変更もありうる。					
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロ - 比較認知科学事始め 2．学習1(学習の基本的諸原理) 3．学習2(学習の生物学) 4．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚1(色彩視) 5．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚2(形態視) 6．動物たちの記憶 7．動物たちの思考1(推論) 8．動物たちの思考2(概念) 9．動物たちのコミュニケーション 10．動物たちの感情 11．動物たちの社会的知性1(欺きと協力) 12．動物たちの社会的知性2(社会的知性の諸要素) 13．動物たちの意識と内省1(自己認知・メタ認知) 14．動物たちの意識と内省2(心的時間旅行) 15．総括 					
-----系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)へ続く-----					

系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

評価方法：講義後に行う小クイズや小レポートなどによる平常点（50%）、及び期末レポート（50%）により評価

評価基準：期末レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の講義内容を、レジюмеや教科書、参考書などを参照して、整理しておくことが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者には、毎回の授業への出席と、積極的な質問や討論を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学69

科目ナンバリング	U-LET28 27109 LJ46				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(心理学)(講義IIe) Psychology (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学講義IIe：知覚心理学				
[授業の概要・目的]					
人間の感覚・知覚について、視知覚を中心に概説する。心理物理学、解剖学、神経生理学などの知見をあわせて感覚・知覚の諸機能とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
ヒトの知覚機能についての基本的事項を理解し、心理学におけるより専門的なトピックを理解するための基礎を習得する。					
[授業計画と内容]					
講義内容は次の通り。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 感覚知覚の一般的特徴 3 視覚システムと基礎機能 4 色の知覚 5 明るさとコントラストの知覚 6 かたちの知覚 7 3次元空間の知覚 8 運動の知覚 9 聴覚 10 音楽知覚 11 その他の感覚と相互作用 12 感性工学 13 視覚の諸相 14 総括 15 期末試験 16 フィードバック(実施方法は授業中に指示する) 					
なお、状況により一部の順序、内容を変更する可能性がある。					
[履修要件]					
特になし					
-----系共通科目(心理学)(講義IIe)(2)へ続く-----					

系共通科目(心理学)(講義Ile)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）による。講義範囲についての到達目標達成度により評価する。
授業内での発言等により加点する場合がある。

[教科書]

吉澤達也 編 『感覚知覚の心理学』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-52034-7（購入必須ではないが強く推奨する。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の後に教科書や関連する本，ウェブサイトなどを見て基本的事項を確認するとともに，各自の興味に合わせてより詳細な理解を得るように努める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設定しない。面談希望はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学70

科目ナンバリング		U-LET28 27113 LJ46			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) Psychology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 森口 佑介	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知発達論(発達心理学)				
[授業の概要・目的]					
<p>ヒトの認識はいかに発生するのか。19世紀末から本格的に問われるようになった認知発達に関する問題は、20世紀に著しく発展し、21世紀には神経科学や生物学、言語学、社会学、経済学、教育学などとの接点を得て、新しい展開を迎えている。本講義では、認知発達に関する歴史的経緯を概観したのちに、認知発達の最新の知見について紹介する。意識、記憶、実行機能、社会的認識などを例に取り上げながら、認識がいかに発生するか、遺伝的要因と環境的要因にいかなる影響をうけるかを講義する。</p>					
[到達目標]					
ヒトの認知発達に関するプロセスやメカニズムを説明できるようになる。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 認知発達理論小史(1)ピアジェ 3 認知発達理論小史(2)ヴィゴツキーから新生得主義まで 4 認知発達理論小史(3)情報処理理論からコネクショニズムまで 5 脳の発達理論 6 遺伝と環境 7 記憶の発達 8 実行機能の発達 9 社会的認識の発達 10 自己の発達 11 想像力の発達 12 情動の発達 13 意識の発生 14 発達障害 15 まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価(50点)およびレポート課題を課す(50点)					
[教科書]					
使用しない					
----- 系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) (2)へ続く -----					

系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) (2)

[参考書等]

(参考書)

森口佑介 『おさなごころを科学する 進化する乳幼児観』 (新曜社)
森口佑介 『自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学』 (講談社現代新書)
森口佑介 『子どもの発達格差 将来を左右する要因は何か』 (PHP新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。読んでおくべき論文や文献等紹介する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学71

科目ナンバリング		U-LET28 37132 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義)(感情・人格心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 准教授 畑中 千紘		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、人格(パーソナリティ)と感情が心理学においてどのように捉えられているのかを論じる。まず、人格の概念について基本的な理論を説明した後、その個人差を捉える方法や、人格の形成過程や偏りについて解説する。次に、感情に関する理論と感情喚起の機序について基本的な考え方を紹介する。そして、心理臨床と人格との関連についても論じる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格に関する基本的な心理学理論や測定法について説明できるようになる。 ・ 人格の形成過程に影響を与える要因について理解する。 ・ 感情に関する理論を学び、感情の仕組みについて心理学的視点から説明できるようになる。 ・ 感情が行動に及ぼす影響を理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合や受講生の理解の状況に応じて内容や順序を変えることがある。なお、授業は基本的にフルオンライン(同期型)を予定している。</p>					
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 人格の概念 第3回 人格の形成過程 第4回 人格の理論(1)特性論 第5回 人格の理論(2)類型論 第6回 人格の測定(1)心理査定の方法 第7回 人格の測定(2)心理査定の実際 第8回 人格の測定(3)心理査定と研究 第9回 人格と病理 第10回 人格の変容 第11回 感情の基礎 第12回 感情の形成過程 第13回 感情と社会 第14回 人格と時代・文化 第15回 フィードバック</p>					
----- 心理学(特殊講義)(感情・人格心理学)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(感情・人格心理学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

【評価方法】

平常点評価：100%（コメントカード：60%，小テスト：40%）

【評価方針】

到達目標について、教育学部の成績評価の方針に従って評価する。

【教科書】

講義に必要な資料はその都度配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 授業時に提示された参考文献を読んで、授業内容についてのさらなる理解を深める。
- ・ 授業を通じて得た知識や疑問等をきっかけに、自ら積極的に関連する資料を収集し、理解を深めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業前後の時間や授業毎に提出するコメントカードで、考えたことや疑問等を受け付ける。必要なフィードバックを行うことで、対話的に授業を進める。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学72

科目ナンバリング		U-LET28 37133 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 准教授 野口 寿一		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、心理的援助を行う際に必要な、精神医学的見地からの精神疾患の診断とその治療の基礎を学ぶことにある。講義では、まず精神疾患の症状や診断、治療法についてその基礎を系統的に提示し、続いて代表的な精神疾患について、症状、診断、薬物療法、心理治療、連携などを論じる。					
[到達目標]					
心理的援助を行うにあたり必要となる、精神疾患についての基礎的知識を習得する。特に、代表的疾患の症状、診断、治療法等についての理解を深める。					
[授業計画と内容]					
授業は以下のアウトラインに沿って行うが、内容は適宜変更となる。					
第1回 精神疾患と精神医療 第2回 精神症状の見方 第3回 精神疾患の診断 第4回 統合失調症について 第5回 統合失調症の経過 第6回 統合失調症の心理的アプローチ 第7回 うつ病、双極性障害について 第8回 神経症圏の疾患について 第9回 人格障害について 第10回 外因性精神病について 第11回 心的外傷およびストレス因関連障害群について 第12回 自閉症スペクトラム障害 第13回 ADHD、LDその他の発達の問題について 第14回 児童期、思春期の問題について < 期末試験 > 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)(2)へ続く -----					

心理学(特殊講義)(精神疾患とその治療)(2)

[成績評価の方法・観点]

定期試験 60点
平常点評価 40点

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

三村将、幸田るみ子、成木迅編 『精神疾患とその治療』(医歯薬出版 2019)
中井久夫ら 『看護のための精神医学 第2版』(医学書院 2019)
滝川一廣ら 『子どものための精神医学』(医学書院 2017)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37134 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 月浦 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	神経心理学				
[授業の概要・目的]					
<p>脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると、その損傷した領域の違いによって、言語や行為、記憶などの様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。本講義では、これらの高次脳機能障害を理解することによって、脳を媒介とした心理メカニズムを理解することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳の疾患によって起こる様々な高次脳機能の障害についての臨床的観点からの知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体としているが、脳が様々な疾患（脳梗塞・脳出血・変性疾患等）によって（局所的に）損傷されると、その損傷領域の違いによって様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。その事実は、損傷した領域と障害を受けた脳機能との間の相関関係を我々に示し、そこから脳を媒体とした認知機能のメカニズムを推測することができるようになる。本講義では、様々な高次脳機能障害を解説することによってその病態を臨床的に理解し、そこからヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内メカニズムを理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1．授業のガイダンスと神経心理学の方法の概説 2．基本的脳解剖 3．視覚認知の障害 4．行為の障害 5．言語の障害 6．言語の障害 7．記憶の障害 8．記憶の障害 9．感情と情動の障害 10．前頭葉機能の障害 11．神経心理学的検査 12．神経心理学的検査 13．「知・情・意」の神経心理学 14．教養教育実習 15．期末試験 					
心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) (2)へ続く					

心理学(特殊講義A)(神経・生理心理学)(2)

16. フィードバック(フィードバック方法は別途連絡します)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

原則的に、試験(100点)によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

[参考書等]

(参考書)

石合純夫『高次脳機能障害学』(医歯薬出版)

山鳥重『神経心理学入門』(医学書院)

河村満・高橋伸佳『高次脳機能障害の症候辞典』(医歯薬出版)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学74

科目ナンバリング		U-LET28 37135 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 月浦 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	神経心理学				
[授業の概要・目的]					
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。近年、機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) などの脳機能イメージング法の発展により、ヒトの高次な認知過程に関連する脳の神経活動のパターンを可視化することが可能になってきている。本講義では、高次脳機能障害を呈する脳損傷患者の事例と、健常者を対象とした高次脳機能に関連する脳機能イメージング研究を対比して解説し、その基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳機能イメージングの方法についての基礎的知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。ヒト認知機能の脳内メカニズムに関しては、伝統的に脳損傷患者を対象として損傷領域と特定の認知機能の障害パターンから研究が行われてきた。しかし、近年の脳機能イメージング技術の発達により、健常者を対象として認知機能に關与する脳内機構を可視化することが可能になってきた。本講義では、脳損傷患者に対する研究と脳機能イメージング法から得られた様々な高次な認知機能を媒介する脳内機構の研究の両方を対比して概説し、ヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンスと神経心理学の方法の概説 2. 基本的脳解剖 3. 知覚の脳機能イメージング 4. 異種感覚統合と行為の脳機能イメージング 5. コミュニケーションの脳機能イメージング 6. コミュニケーションの脳機能イメージング 7. 記憶の脳機能イメージング 8. 記憶の脳機能イメージング 9. 感情と情動の脳機能イメージング 10. 前頭葉機能の脳機能イメージング 11. 社会的認知の脳機能イメージング 12. 脳機能イメージングの応用 13. 「知・情・意」の神経心理学 14. 教養教育実習 					
心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)へ続く					

心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)

15. 期末試験
16. フィードバック (フィードバック方法については別途指示します)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験(100点)によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学75

科目ナンバリング		U-LET28 37136 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学 (知覚・認知心理学)				
[授業の概要・目的]					
<p>認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定などを含む広い分野であるが、本講義は、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、視覚認識における記憶、注意の役割に焦点を当てて解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 3次元構造の知覚 第7 - 8回 物体認識 第9 - 10回 視覚認知における記憶の機能 第11 - 12回 視覚認知における注意の機能 第13 - 14回 認知における特徴の統合 第15回 試験 第16回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点 (100点満点) で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。</p>					
----- 心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----					

心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学76

科目ナンバリング		U-LET28 37137 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学 (知覚・認知心理学)				
[授業の概要・目的]					
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定、運動制御などを含む広い分野であるが、本講義では、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、探索行動を題材に取り上げ、知覚、意思決定、眼球運動の機能に焦点を当てて解説する。					
[到達目標]					
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。					
[授業計画と内容]					
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。					
第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 シーンの認知 第7 - 8回 探索行動における視覚の機能 第9 - 10回 視覚探索と眼球運動 第11 - 12回 探索行動における意思決定 第13 - 14回 探索行動における記憶の役割 第15回 試験 第16回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点 (100点満点) で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。					
----- 心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----					

心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学77

科目ナンバリング		U-LET29 17202 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義 I) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学概論 音声学・音韻論・形態論を中心に				
【授業の概要・目的】					
<p>言語学は、人間のコトバに関わる現象の分析を通じてコトバの使用やその能力を人間が理解可能な形で明らかにしようとする学問である。私たちにとってコトバはきわめて身近な存在でありながら多くの受講生にとって言語学はなじみのない学問領域であると思われる。この授業では、言語学の専門的知識をもたない学生を対象として、言語や言語音を研究するためにこれまで用いられてきた基礎的な概念や用語、分析方法について紹介し、その必要性や問題点を概観する。</p>					
【到達目標】					
<p>言語学の各分野で使われている概念・用語や分析方法についての基礎的知識を修得し、そうした知識を用いて実際に言語データを分析することができるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>この授業では、人間言語の特徴と言語研究の方法について概観したのち、言語学を構成する主要分野のうち音声学・音韻論と形態論に関するトピックを中心に解説する。以下のようなスケジュールと題目で授業を進める予定である。今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。</p>					
<p>第1回 ガイダンスとイントロダクション 第2回 言葉話す 人間言語の特徴 第3回 言葉探究する 言語研究の方法 第4回 音を出す 調音音声学 第5回 音を書く 国際音声記号 第6回 音を見る 音響音声学 第7回 音を別ける 音素分析 第8回 音を分ける 音節とモーラ 第9回 音を上げる・下げる アクセントとイントネーション(1) 第10回 音を上げる・下げる アクセントとイントネーション(2) 第11回 語を分ける 形態素分析 第12回 語を変える 派生と屈折 第13回 語を合わせる 複合 第14回 語を再考する 形態論と統語論 第15回 フィードバック</p>					
-----系共通科目(言語学)(講義 I)(2)へ続く-----					

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（不定期の小レポート）【40%】および定期試験（筆記）【60%】により評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で分からなかった概念・用語や興味をもった事柄は、授業で紹介される文献等を参考に自分で調べて知識として定着させてほしい。ただし、大学での学びにおいて唯一絶対の正解は存在しない。教師の言うことや本に書いてあることには常に疑いの目を向け、自分なりにあれこれ考えてみる大切である。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17204 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義Ⅰ) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学概論Ⅱ - - 談話文法, 統語論, 意味論を中心に				
[授業の概要・目的]					
この授業では, さまざまな研究者の言説の解説を通じて, 言語学の理論的前提と方法論を教授し, 同時に言語の奥深さを体験してもらう。					
[到達目標]					
言語学の理論と基本的な分野に関して, 以下のことを理解する。 1) 何が問題となっているのか。 2) その問題に対してどのような考えがあるのか。 3) それらの考えの背後に, どのような言語観ひいては人間観があるのか。					
[授業計画と内容]					
言語学の目的は, 言語の考察を通して人間を理解することにあるが, その道は一つではなく多様である。この授業では現代言語学のさまざまな考えを紹介しながら, その問題意識をなるべく具体的な形で解説する。中心的なトピックは, 統語論, 談話文法, 意味論である。今年度は定延利之がすべての授業を担当する。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに、言語学の下位分野、反証可能性 2. ソシユールの記号的な言語観 3. コミュニケーション1 4. コミュニケーション2 5. 言語とその他のコミュニケーション行動 6. 談話と文 7. アメリカ構造主義言語学 8. アメリカ構造主義言語学と「認知革命」 9. チョムスキー言語学の合理主義的特徴 10. プロトタイプカテゴリと認知言語学 11. 表象主義と状況論 12. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 1 13. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 2 14. 「する」言語と「なる」言語 15. まとめ 					
----- 系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)へ続く -----					

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

[履修要件]

前期の言語学講義Ⅰを履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

筆記試験

[教科書]

資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

いくつかの基本的現象に関しては、世界諸言語の言語データを分析する。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学79

科目ナンバリング		U-LET29 17206 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語変化の考え方				
【授業の概要・目的】					
<p>言語学についての予備知識がない学生を対象にして、歴史言語学の考え方を紹介する。音変化、類推、文法化、統語変化、語彙変化、比較方法、祖語の再建などの基本的な概念を取り上げて、</p> <p>(1) 言語はどのように変化するのか</p> <p>(2) 言語はなぜ変化するのか</p> <p>という問題について考える。</p>					
【到達目標】					
言語変化の基本的な考え方が把握され、歴史言語学の分野が理解できるようになる。					
【授業計画と内容】					
<p>Bybee (2015) の以下の章について、順次に考察する。なお、今年度は Adam A. Catt がすべての授業を担当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業紹介 2. 第1章 言語変化の研究 3. 第2章 音変化 4. 第3章 より広い観点からの音変化と音韻変化 5. 第4章 音変化と文法間の相互作用 6. 第5章 類推変化 7. 第6章 文法化 8. 第7章 文法化の共通経路 9. 第8章 統語変化 10. 第9章 語彙変化 11. 第10章 比較、再建、および類型論 12. 第11章 言語変化はなぜ起こるのか 13. まとめと諸問題 14. まとめと諸問題 15. まとめと諸問題 					
【履修要件】					
特になし					
-----系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く-----					

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に指示する課題（75％）と平常点（25％）を勘案する。

[教科書]

Joan Bybee 『Language Change』（Cambridge University Press, 2015）ISBN:978-1-107-65582-9

Joan Bybee 『言語はどのように変化するのか』（開拓社, 2019）ISBN:978-4-7589-2272-2

使用する教科書は、英語版と和訳があります。内容は同じですので、自分にとって使いやすい方を買ってください。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習と復習を必ずすること。

（その他（オフィスアワー等））

授業の後に、相談を受け付ける。それ以外でも適宜面談の機会を持つが、メールなどで事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学80

科目ナンバリング		U-LET29 17208 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学の歴史				
[授業の概要・目的]					
<p>言語の研究は長い歴史を有するが、高校までの教科に「言語学」科目が存在しないため、多くの受講生にとってなじみの薄い研究分野になるのではないか。この講義では、言語学についての予備知識がない学生を対象にして、古代から現代に至る言語研究の歴史を概観することによって、人間が言語に対してもってきた関心の向け方と捉え方の変遷を辿り、今日の言語学の研究方法や、そこで使用される概念・用語の成立の背景について講義する。</p>					
[到達目標]					
<p>過去の言語研究の流れの概要を把握し、現在の言語学の術語や概念の成立の事情が理解する。さまざまな言語における言語事実を基礎知識として身につけ、言語の在り方についての理解を深める。この、言語事実の多様性を前提として、その背後に存在する通言語的な規則性が見出されてきた歴史を把握する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>言語研究に大きな影響を及ぼした個人や分析手法を取り上げ、その成果について解説する。今年度後期は千田俊太郎がすべての授業を受け持つ。解説は、以下の順序に沿って行ってゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 古代の言語学 2. 母語の「発見」と異民族語の「発見」 3. 「インド」との遭遇 4. フンボルト 5. 言語学と科学 6. 青年文法学派 7. 言語学の多様化: ドイツ語圏 8. 言語学の多様化: 非ドイツ語圏 9. 新しい言語学の兆し 10. アメリカの言語学 11. 日本と言語学 12. プラーク学派 13. 言語普遍の探究へ 14. 現代言語学 15. まとめ 					
----- 系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く -----					

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

【履修要件】

他の「言語学講義(I, II)」のどれかを履修済みであることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

積極的な授業参加(60%)、定期試験(40%)

【教科書】

資料配布

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

研究史をみてゆくため、挙げられる用語や人名は多目である。プリントを参考に復習していただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは設けない。面談が必要な学生は授業後に予約をとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学81

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	基礎演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語研究の現代的手法				
[授業の概要・目的]					
現代の言語研究を総合的に理解するための、現代の古典にあたる基礎的論文をテキストにして、重要な概念や分析手法をまなぶ。この授業では、類型論・言語普遍についての論文を取り上げる。					
[到達目標]					
類型論・言語普遍についての基礎的な知識と分析手法を身につける。					
[授業計画と内容]					
今年度のこの授業は千田俊太郎がすべての授業を担当する。この授業では、受講者は講師の用意した論文リストから受け持つ論文(の一部)を選び、内容を紹介した上で批判的に検討する。次は論文リストのサンプルである。					
<ol style="list-style-type: none"> Hockett, Charles F. (1960) The Origin of Speech, Scientific American 203, 88-111 Reprinted in: Wang, William S-Y. (1982) Human Communication: Language and Its Psychobiological Bases, Scientific American pp. 4-12. Ladd, D. Robert (2012) What is duality of patterning, anyway? Language and Cognition 4(4): 261 - 273. Evans, Nicholas and Levinson, Stephen C. (2009) "The myth of language universals: Language diversity and its importance for cognitive science", Behavioral and Brain Sciences 32, 429-492 Zwicky, Arnold (1978) On markedness in morphology, Die Sprache 24, 129-143. Haiman, John (1983) "Iconic and economic motivation", Language 59(4), 781-819 Joseph H. Greenberg (1960) A Quantitative Approach to the Morphological Typology of Language, International Journal of American Linguistics 26:3, 178-194. Greenberg, Joseph H. (1963) Some universals of grammar with particular reference to the order of meaningful elements, in Greenberg, Joseph H. (ed) Universals of Language, 58--90, The M.I.T. Press Croft, William (1995) Modern syntactic typology. In Shibatani, Masayoshi and Theodora Bynon (Eds.), Approaches to language typology, pp. 85-144. Oxford University Press. Dahl, Osten (1990) Standard Average European as an exotic language, in Toward a typology of European languages: Empirical approaches to language typology 8, 3-8 					
<p>第1回：導入 第2-14回：受講生の発表と討論 第15回：まとめ</p>					
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----					

言語学(基礎演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

議論への積極的な参加と受け答え(50%)，レポート(50%)の合計による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

復習を怠らないようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

予約をとってもらえば質問などに応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師	千田 俊太郎 CATT, Adam Alvah 定延 利之 大竹 昌巳
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	基礎演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語創造を通して学ぶ言語のしくみ 言語類型論入門				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、受講者に自分だけの言語をつくってもらう。その作業を通して、人間言語に通底するしくみやそれを分析・記述するための言語学的枠組みを実践的に理解してもらおうというのがこの授業のねらいである。</p> <p>言語を創作するためには、人間言語をどんな観点から見ればよいか、その観点に関して人間言語はどんな選択肢をとりうるかについて知っておく必要がある。この授業ではまず担当講師が、実際の世界の言語のあり方について、特に文法構造に着目していくつかの項目を取り上げ解説する。受講者は解説を聞いて創作する言語について構想を練り、具体的な形式で肉付けして、どんな言語を創り上げたかを中間報告として発表する。言語を創作する際には、どの特徴とどの特徴を組み合わせれば効率的なコミュニケーションが達成可能な言語となるかを考えてもらいたい。実際の言語は、まったく恣意的に諸特徴を組み合わせ成り立っているのではなく、その構造には一定の傾向が見られる。そうした傾向やその背景にあると考えられる原理について中間報告を聞いたのち担当講師が解説するので、それをふまえて自分の創作言語を改訂し、最終的にレポートにまとめて提出してもらおう。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間言語の分析・記述に必要な言語学的枠組みを知識として習得するとともに、それを自分で使いこなす能力を修得する。 ・人間言語に通底する原理について理解し、具体的な言語特徴との関連を考察することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業は3つのパートから成る。第I部では担当講師が文法構造の類型論的基礎知識について講義する。第II部では第I部の内容をふまえ、各受講者が自分たちが創作した言語について発表する。受講者数にもよるが、数人のグループに分かれての作業を予定している。第III部では受講者がつくった言語を取り上げながら、実際の言語に見られる傾向との相違や、言語構造を形づくる原理について担当講師がコメント・解説する。最終的には、第III部の内容をふまえて第II部で発表した創作言語を改訂し、期末レポートとして提出してもらおう。</p> <p>授業は以下の予定に沿って進めるが、受講者数に応じてスケジュールが変更される可能性があるため、【 】内に示した回数はあくまでも目安である。なお、今年度は大竹昌巳がすべての回を担当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション【第1回】 授業の方針についてガイダンスを行なう。 ・第I部 レクチャー篇【第2回～第7回】 第2回：語順の類型論 					
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----					

言語学(基礎演習)(2)

- 第3回：格標示の類型論
 - 第4回：名詞句の類型論
 - 第5回：動詞句の類型論
 - 第6回：複文の類型論
 - 第7回：その他
 - ・第II部 プレゼン篇【第8回～第12回】
 - ・第III部 コメント篇【第13回～第14回】
 - ・フィードバック【第15回】
- フィードバックの内容については授業内で説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

発表(50%)と期末レポート(50%)に基づき総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

リンゼイ・J・ウェイリー(著), 大堀壽夫 古賀裕章 山泉実(訳) 『言語類型論入門：言語の普遍性と多様性』(岩波書店, 2006年) ISBN:9784000227605

風間伸次郎 山田怜央(編著) 『28言語で読む「星の王子さま」：世界の言語を学ぶための言語学入門』(東京外国語大学出版会, 2021年) ISBN:978-4-904575-87-1

(関連URL)

<https://wals.info/>(The World Atlas of Language Structures Online)

[授業外学修(予習・復習)等]

言語を創作するためには細部を肉付けする必要があるため、そのための時間を適宜設ける必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学83

科目ナンバリング	U-LET49 29648 LJ48				
授業科目名 <英訳>	朝鮮語（初級A）(語学) Korean	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	朝鮮語（初級）				
【授業の概要・目的】					
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。					
【到達目標】					
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。					
【授業計画と内容】					
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。					
第1回：ガイダンス 第2回：文字(1)（第1課相当） 第3回：文字(2)（第1課相当） 第4回：発音(1)（第2課相当） 第5回：発音(2)（第2課相当） 第6回：単語の表記(1)（第3課相当） 第7回：単語の表記(2)（第3課相当） 第8回：単語の発音(1)（第4課相当） 第9回：単語の発音(2)（第4課相当） 第10回：現在終止形（上称体）（第5課相当） 第11回：名詞と助詞（第6課相当） 第12回：数詞と助数詞(1)（第7課相当） 第13回：数詞と助数詞(2)（第7課相当） 第14回：否定と肯定（第8課相当） 第15回：期末試験・フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（30点）と学期末試験（70点）。					
【教科書】					
松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0					
----- 朝鮮語（初級A）(語学)(2)へ続く -----					

朝鮮語（初級A）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学84

科目ナンバリング	U-LET49 29649 LJ48				
授業科目名 <英訳>	朝鮮語（初級B）(語学) Korean	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金1	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	朝鮮語（初級）				
【授業の概要・目的】					
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。					
【到達目標】					
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。					
【授業計画と内容】					
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。					
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：略待上称体(1)（第9課相当）</p> <p>第3回：略待上称体(2)（第9課相当）</p> <p>第4回：変則用言(1)（第10課相当）</p> <p>第5回：変則用言(2)（第10課相当）</p> <p>第6回：過去終止形（第11課相当）</p> <p>第7回：未来終止形（第12課相当）</p> <p>第8回：敬語形（第13課相当）</p> <p>第9回：命令・勧誘・禁止（第14課相当）</p> <p>第10回：連用形（第15課相当）</p> <p>第11回：連体形（第16課相当）</p> <p>第12回：各種接続語尾（第17課相当）</p> <p>第13回：各種補助用言（第18課相当）</p> <p>第14回：各種補助用言)（第18課相当）</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>					
【履修要件】					
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（30点）と学期末試験（70点）。					
【教科書】					
松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0					
----- 朝鮮語（初級B）(語学)(2)へ続く -----					

朝鮮語（初級B）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学85

科目ナンバリング	U-LET30 27302 LJ45				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会学概論I				
[授業の概要・目的]					
<p>社会学のディシプリンとしての性格について隣接する学問領域と比較しつつ解説し、社会学の成立から現代までの歴史的展開を辿った後、R. コリンズ(『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』)の整理に従って社会学の主要な理論的伝統を4つに分け、それぞれについて代表的な社会学者の学説を取り上げてその基本的な考え方の特徴を体系的に解説し、それらの成立過程、異同や相互関係について概説する。</p>					
[到達目標]					
<p>社会学的なものの見方の特徴について学び、社会学の代表的な基礎理論についてそれぞれのアプローチの特徴を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の順で講義を進める。ただし講義の進み具合によって各テーマの回数は変動する可能性がある。</p> <p>第1回 社会学とは何か 第2回 社会学の歴史 第3回 機能主義的伝統(1) デュルケム 第4回 機能主義的伝統(2) パーソンズ 第5回 機能主義的伝統(3) マートン、ルーマン、ネオ機能主義 第6回 コンフリクト理論的伝統(1) マルクス、ヴェーバー 第7回 コンフリクト理論的伝統(2) ヴェーバー 第8回 コンフリクト理論的伝統(3) 比較歴史社会学、批判理論 第9回 ミクロ相互作用論的伝統(1) ジンメル、ミード 第10回 ミクロ相互作用論的伝統(2) シンボリック相互作用論、ゴフマン 第11回 ミクロ相互作用論的伝統(3) 現象学的社会学、エスノメソドロジー 第12回 功利主義的伝統 第13回 理論的総合の試み 第14回 まとめと展望 《期末試験》 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----					

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

定期試験による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

ランドル・コリンズ 『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』 (有斐閣、1997) ISBN: 9784641075955

友枝敏雄ほか (編) 『社会学の力(改訂版)』 (有斐閣、2023) ISBN:9784641174818

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は特に必要ないが、授業中に紹介する社会学者の著作を各自の関心に応じて読んでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 27304 LJ45			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会学概論 II				
[授業の概要・目的]					
現代世界で生起している諸現象を特徴付けるいくつかの重要なキーワードをとりあげ、前期で習得した社会学的な視点(社会学的方法論)を活用してどのようにしてその現象を認識し、どのようにしてその現象の背後にある(見えない)構造的な仕組みを理解することができるのかを明らかにする。					
[到達目標]					
現代世界で起きているさまざまな現象を表層的にとらえるのではなく、その現象が根ざしている、あるいはその現象をつくりだしているより深層の構造を批判的にとらえる社会学的想像力を身につけることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 社会変動論と現代社会論 第2回 近代化論 第3回 大衆消費社会論 第4回 後期近代とモダニティ論 第5回 階級闘争と社会革命 第6回 社会階層と社会的地位 第7回 中間試験 第8回 社会移動と学歴 第9回 社会学方法論 第10回 科学と知識の社会学 第11回 年齢・時代・コーホートと社会変動論 第12回 家族とジェンダー 第13回 政治と福祉の社会学 第14回 社会学はどう役立つか 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 20%、試験 80%					
[教科書]					
使用しない					
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----					

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[参考書等]

(参考書)

友枝敏雄, 浜日出夫, 山田真茂留 『社会学の力 -- 最重要概念・命題集 改訂版』 (有斐閣) ISBN: 978-4-641-17481-8

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中指示した基本文献を読むこと

(その他(オフィスアワー等))

* オフィスアワーの詳細についてはKULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学87

科目ナンバリング		U-LET30 37361 PJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(実習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際(社会調査士科目G)				
【授業の概要・目的】					
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつとおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。					
【到達目標】					
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
前期					
1オリエンテーション					
2 調査の企画					
3 仮説構成					
4 調査項目の設定					
5 質問文・調査票の作成					
6 プリテストと調査票の修正					
7 対象者・地域の選定					
8 サンプルング					
9 調査の実施(調査票の配布・回収、面接)					
10 エディティング					
11 集計、分析					
12 データの視覚化					
13 仮説検証					
14 報告書の作成					
15 フィードバック					
後期					
1オリエンテーション					
2 データの入力・読み込み					
3 単純集計表、ヒストグラムの作成					
4 変数の操作の基礎					
5 変数の操作の応用					
6 クロス集計表、帯グラフの基礎					
7 クロス集計表、帯グラフの応用					
8 散布図、箱ヒゲ図の作成					
9 データセットの分割・結合					
10 独立性の検定					
11 平均値の差の検定					
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----					

社会学(実習)(2)

- 12 多重クロス表分析
- 13 回帰分析の基礎
- 14 回帰分析の応用
- 15 フィードバック

[履修要件]

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

[成績評価の方法・観点]

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

[授業外学修(予習・復習)等]

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。